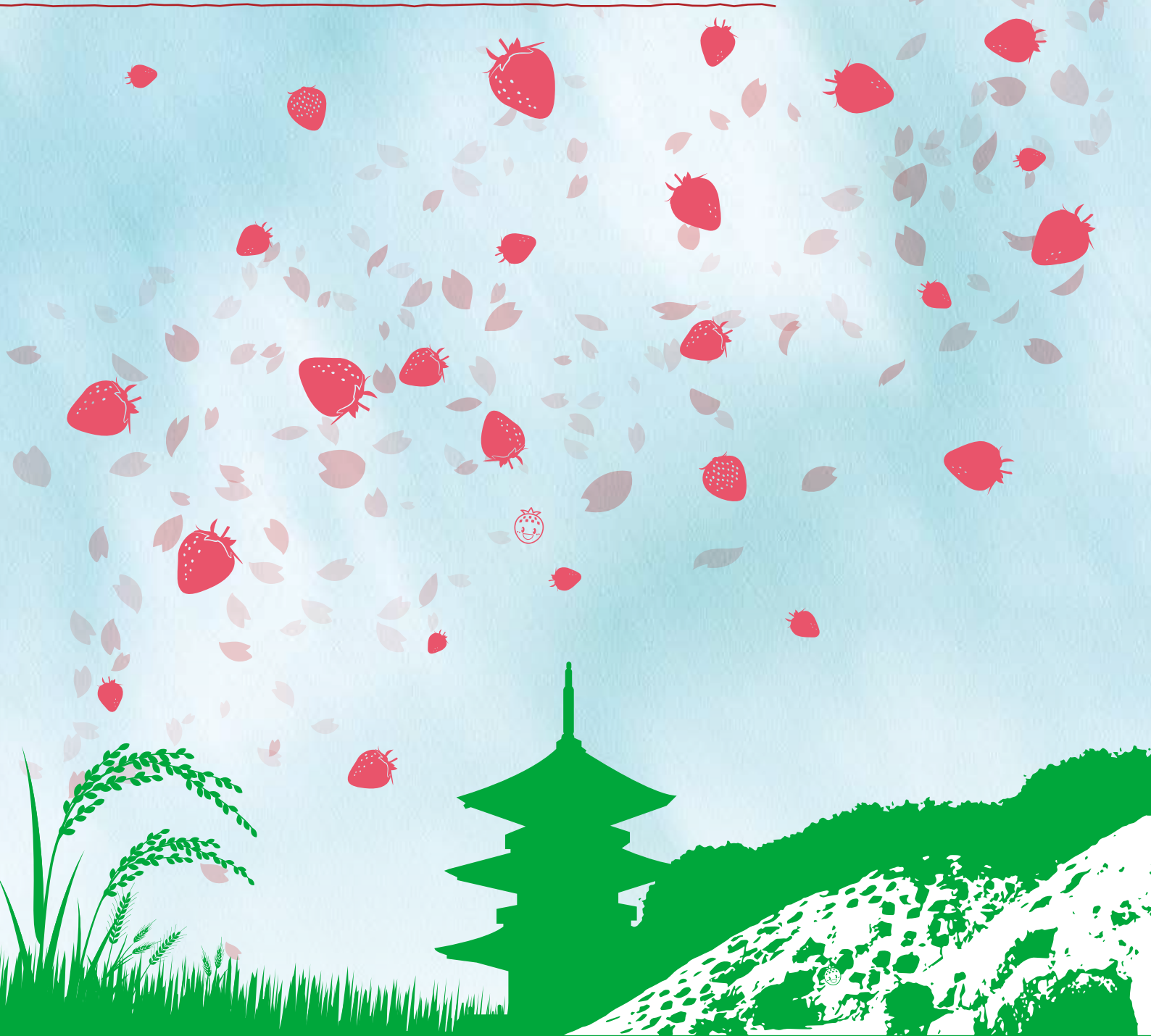


第六次 吉見町 総合振興計画



町長の想い

第六次吉見町総合振興計画の策定にあたって



吉見町長 宮崎善雄

いま私たち一人ひとりが、大きな時代の転換点に立っています。

直面している様々な課題の解決に取り組みながら、同時に、未来への責任を果たす行動を求められています。

厳しい現実「もう駄目だ・・・」と諦めてしまいそうな気持ちをぐっところえ、それぞれの立場でできることを一つひとつ積み重ね、未来に向けて、みんなで考え、工夫し、力を合わせていかななくてはなりません。

この計画には、一つひとつの課題や可能性と丁寧に向き合い、みんなが安心を感じられ、次の世代が「未来を引き継ぎたい」と思えるまちづくりを進めていこうという想いがこめられています。

いつの日か過去を振り返ったとき、「あのとき考えたから——工夫したから、頑張ったから——これを実現できた」とみんなで笑い合えるように、まずは今から10年、みんなで未来に向けて足元から取組を進めていきましょう。

結びに、計画の策定にあたり、ご協力いただいた町議会をはじめ、多くの町民の皆さま、コロナ禍にもかかわらず活発かつ慎重にご審議いただいた総合振興計画審議会委員の皆さまに、心から感謝申し上げます。

令和3年3月

吉見町民憲章

わたくしたちは、みどり豊かな自然に恵まれ、由緒ある歴史と伝統にはぐくまれた吉見町を愛し、より明るく住みよい町をつくるため、町民憲章を定めます。

- 1 自然を守り、環境をととのえ、きれいな町にしよう。
- 1 歴史を愛し、文化を育て、心ゆたかな町にしよう。
- 1 産業を伸ばし、勤労を尊び、活力ある町にしよう。
- 1 人権を尊重し、福祉をすすめ、住みよい町にしよう。
- 1 スポーツを愛し、心身を鍛え、明るい町にしよう。

吉見町章



合併した4つの吉見（東吉見村、南吉見村、西吉見村、北吉見村）が、首長を中心にしてガッチリ手を組み、どの方向から見ても均衡のとれた安定感をもたせ、四方に突き出た先端は東（E）南（S）西（W）北（N）を意味し、どこまでも生成発展する吉見町のたくましさを象徴しています。

町の花・木・鳥

合併 30 周年を記念して、町民の方から町の花・木・鳥を募集し、吉見の歴史や生活との関わりをもとに、町の花に『きく』、町の木に『けやき』、町の鳥に『ひばり』を決定しました。



町の花
『きく』



町の木
『けやき』



町の鳥
『ひばり』

あたらしい総合振興計画 10年先、20年先の吉見町のために

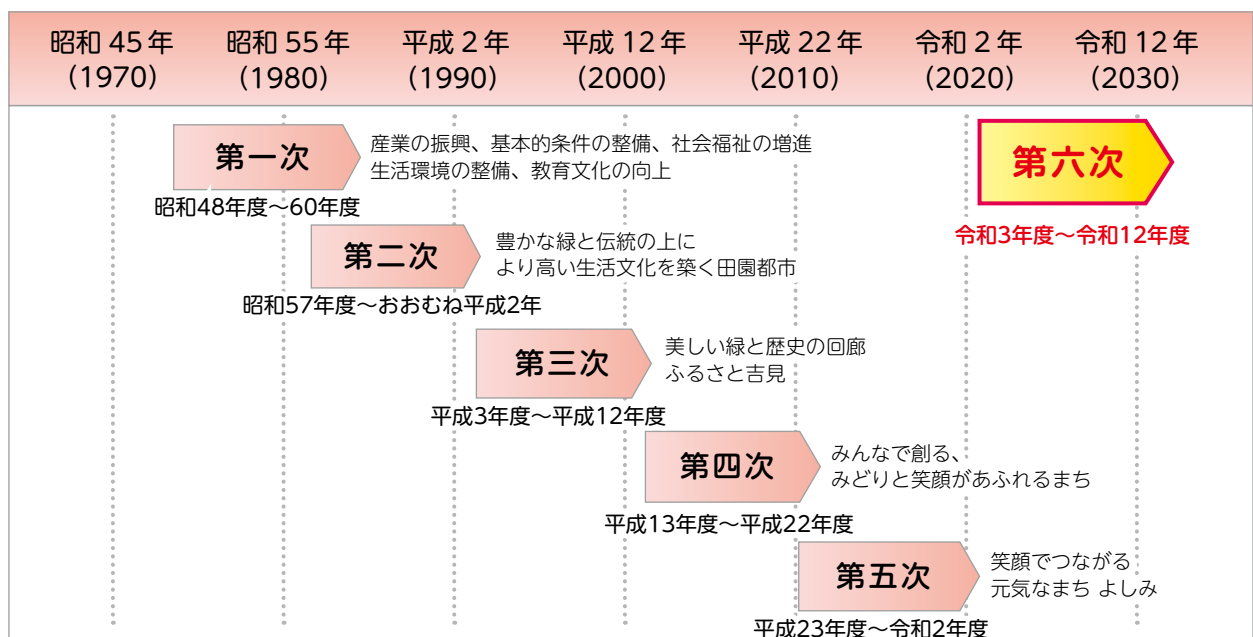
町は、令和2年度（2020）を目標年次とする「第五次吉見町総合振興計画」を平成23年度（2011）に策定し、各種の政策・施策を展開するとともに、行政改革、地方創生の取組などを実施してきました。

この間、町では少子高齢化と人口減少が本格的に進行し、令和22年（2040）頃まで、高齢化率の上昇と人口減少の同時進行が続く見込みです。今後は、働き手・担い手世代の減少による地域活力の低下、コミュニティの希薄化、人口規模に合わせた経済や地域社会の縮小など、吉見町で暮らす人々の生活にも様々な変化が予想されます。

加えて、計画的に対応することが困難な大規模自然災害の発生や、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）なども現れてきました。

このような状況においては、これまでの延長線上に積み上げていく考え方や方法では、生活、経済、地域コミュニティなどを維持していくことが難しくなります。

こうしたことを踏まえ、急速に進行する少子高齢化や人口減少への的確な対応と、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めるため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「行政改革大綱」についても包括しつつ、「20年先を見据えて、10年後をどう通過していくか」という視点から、次の世代へつなげるまちづくりの指針として、「第六次吉見町総合振興計画」を策定しました。



「まちづくりなんて関係ない」と思っているあなたへ	1
第1部 はじめに	5
第1章 第六次吉見町総合振興計画策定にあたって	6
1. 「総合振興計画」は、何のためにあるのでしょうか?	6
2. 計画の構成と計画期間	7
(1) 構成（新しい総合振興計画のカタチ）	7
(2) 計画期間	7
第2章 吉見町の概況	8
1. 吉見町について	8
2. 町民のニーズ（守りたいもの・育てたいもの・求めているもの）	10
3. 吉見町の可能性と課題	13
4. 吉見町を取り巻く社会の変化	16
第2部 基本構想	21
第1章 基本構想体系図	22
第2章 将来像とまちづくりの指標（KGI）	23
第3章 基本的視点	28
第4章 ライフステージ別目標	30
第5章 人口規模とまちづくり	32
第6章 未来地図―土地に、人の生活・想いを重ね合わせる―	36
第3部 前期基本計画	39
第1章 基本構想実現のための前期基本計画	40
1. なぜ基本計画を策定するのでしょうか?	40
2. 前期基本計画体系一覧	41
3. 各種分野別計画と関連するライフステージ別目標	42
第2章 ライフステージ別の取組	44
1. 「育ちたい・育てたい」と思えるまち	44
2. 「学びたい」と思えるまち	46
3. 「働きたい」と思えるまち	48
4. 「暮らしたい」と思えるまち	50
5. 「知りたい」と思えるまち	52
6. 「未来を引き継ぎたい」と思えるまち	54
7. KPIの一覧	56

第4部 計画の実現に向けて..... 59

第1章 計画の推進体制60

1. 多様な主体の共感・協働.....60
2. 分野横断的な視点.....60

第2章 計画の進行管理60

1. 変化への柔軟な対応—進化する計画—.....60
2. 町民視点による進行管理.....60

第5部 参考資料..... 61

1. 吉見町総合振興計画審議会条例62
2. 吉見町総合振興計画審議会委員名簿63
3. 第六次吉見町総合振興計画策定経過64
4. 審議会諮問・答申.....67
5. 庁議名簿69
6. 第六次吉見町総合振興計画・前期基本計画策定プロジェクトチーム名簿70
7. あなたの「〇〇したい」掲載者一覧.....72



この計画書には、

特別
企画

未来へつなぐ みんなの想いを大募集

あなたの

「〇〇したい」

に応募してくれたいろいろな人の「〇〇したい」が出てきます。
どんな想いが出てくるかな？

「まちづくりなんて関係ない」と
思っているあなたへ



あなたとまちづくりの関係



そもそも「そうごうしんこうけいかく総合振興計画」ってなに？



総合振興計画は、これから10年間、吉見町がどんなまちづくりを進めていくかをまとめた大切な計画です。



みんな読んでいるの？



実は、あんまり読まれていないというか、ほとんど読まないかもしれなくて…。でも本当は、みんなで吉見町をより良くしていくために、読んで、いろいろ考えて、話し合っしてほしいと思っています。できるだけ分かりやすく作ったので、興味があるところだけでも読んでください。



まちづくりは行政でうまくやってよ。



いや、それが…。吉見町に住んでいる人の暮らしが多様化したことで、幅広く高度なニーズが出てきています。少子高齢化や人口減少に加えて、異常気象に伴う災害や新型コロナウイルス感染症など、今までにない問題も現れてきました。行政の対応力だけに頼って進めるまちづくりは、限界が見えています。




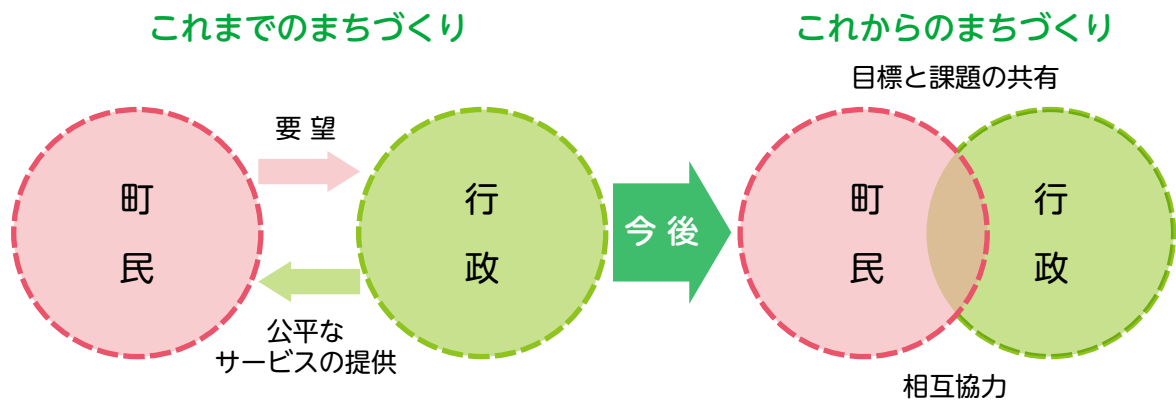
えっ、それは困るなあ。どうにかならないの。



行政だけでは限界がありますが、吉見町には知識や経験、技術を持った人、体力や時間のある人など、本当に様々な人が住んでいて、いろいろな活動をしている団体もあります。これからのまちづくりは、『町民みなさんの力』がカギを握っています。一人ひとりが、まちづくりの方法を知り、参加して、町民、事業者、各種団体、行政など、様々な主体が互いに協力しながら、多種多様なニーズに応えていくことができれば、みんながより快適で、充実した暮らしができるようになるはずですよ。

これからのまちづくり（町民と行政の関係）

－ 時代の変化に対応していくには『町民の力』がカギ  －



まちづくりができるような資格や能力なんてないよ。



まちづくりに参加するのに、資格や特別な能力は必要ありません。年齢も関係ありません。どんな人でも、興味のあること、好きなこと、得意なことがあるはずですよ。それらを活かして周囲の誰かを今よりちょっと幸せにする、それが町の様々な場所で起こるとしたら、「吉見町は良いまちだ」と思いませんか？



幸せや価値観って、人それぞれでしょ？



個人の幸せや価値観は、それぞれ違うかもしれません。時代や地域によって変わることもあると思います。でも、様々な調査から、吉見町に暮らす人たちに共通する想いや願いがありそうということも分かってきました。そこで今回は、吉見らしさを感じる暮らし、吉見町ならではの幸せを実現していくという視点で、計画を整理しています。

**今から 10 年後 20 年後の吉見町をより良くするために
今、みなさんの力が必要です！**



これだけは押さえよう！

自分自身で、家族や友だち、地域の人たちと
これからの吉見町について考えたり、話したりすること
未来のために何かをやること、すべてが『まちづくり』です



第1部
はじめに

第1章 第六次吉見町総合振興計画策定にあたって

1. 「総合振興計画」は、何のためにあるのでしょうか？

まちづくりは、夢があって楽しいものです。しかし、一つひとつ高度で専門的なことが複雑に絡み合う現代社会において、それぞれの人が各自の都合で、それぞれが良いと考えるゴールを目指してまちづくりを進めると、ある分野で「良かれ」と思ったことが、別の分野にマイナスの影響を及ぼすことやお互いのタイミングがずれて、うまく協力できないということが起こります。

「総合振興計画」は、町民、事業者、各種団体、行政など様々な主体が、それぞれのスタート地点から目的地を目指せるように、それぞれの取組が、吉見町で暮らす人々にとってより良い未来へとつながるように、みんなが目指す『まちづくりの目的地』をセットしたナビゲーションです。

「総合振興計画」(ナビゲーション)は、どこを目指せば良いか教えてくれます。道に迷ったときも、目的地へ至る道筋を示してくれます。ただし、目的地へ到達するには、実際の状況に合わせた判断と、前に進むための一人ひとりの努力が必要です。

さあ、一緒にまちづくりをはじめましょう!!



これだけは押さえよう!

総合振興計画は、まちづくりのナビゲーション計画の実現には、一人ひとりの努力が必要です



第一次総合振興計画には、どんなことが書かれていたの？

〈吉見村総合振興計画基本構想〉

(昭和48年度(1973)～60年度(1985))

快適な生活をする為には山も、田も、畑も、沼もすべて必要です。価値のない様に見えても、実はこの村にとって素晴らしい貴重な財産なのです。勿論個人にとってもそうです。人口の多い事、便利の良い事、娯楽施設の多い事だけでは、何等私達の生活の上で幸せであるとは言えません。



40年以上前の計画なのに、どこか、いまのまちづくりにも通じているね。

2. 計画の構成と計画期間

(1) 構成（新しい総合振興計画のカタチ）

よしみスタイル

－「事業管理型」から「目標管理型」の計画へ－
Light（目標となる光）& Light（ボリュームは軽量化）

総合振興計画が
担う部分

項目	内容
基本構想	<ul style="list-style-type: none"> ■将来像・まちづくりの指標 ■基本的視点 ■ライフステージ別目標 ■人口規模とまちづくり ■未来地図
基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ■ライフステージ別目標がめざす姿 ■評価指標 ■めざす姿を実現するための取組

(各種分野別計画等)



分野ごとに策定する各種計画は、
総合振興計画と整合させます。

(2) 計画期間

和暦（年度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12		
西暦（年度）	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		
基本構想 （期間10年）	第六次総合振興計画											
基本計画 （期間5年）	前期基本計画					後期基本計画						
各種分野別計画 （各計画により、計画期間が異なる）	各種計画											
実施計画 （期間3年）	実施計画			実施計画			実施計画			実施計画		
※各種計画と財政状況などを踏まえてローリング方式で毎年度見直し												

第2章 吉見町の概況

1. 吉見町について

10年先、20年先を見据えたとき、みなさんが考えるまちづくりとはどんなものでしょうか。これから10年間のまちづくりで、私たちは何に気を付ければよいのでしょうか。まずは、吉見町について整理します。

? 吉見町は、いつ誕生したの?

-A- 昭和29年(1954)に東吉見村、南吉見村、西吉見村、北吉見村の4つの村が合併して吉見村が誕生し、昭和47年(1972)に町制を施行して、吉見村から吉見町になりました。

? 吉見町は、どんな特徴があるの?

-A- 【まちの位置】

・吉見町は、都心から50km圏、埼玉県のほぼ中央に位置する東西7km、南北8km、総面積38.64km²の町です。

【まちの特徴】 ※町民の意見

- ・豊かな自然とのどかな田園風景
- ・歴史と多様な文化財(吉見百穴、松山城跡、吉見観音など)
- ・特産品としてのいちご
- ・ふれあい交流の拠点(道の駅いちごの里よしみ)
- ・極端に悪いところもないし、飛びぬけて良いところもない

中学生は、大人たちよりも吉見町を好きだったり、
住みやすいと感じていたりするよ。

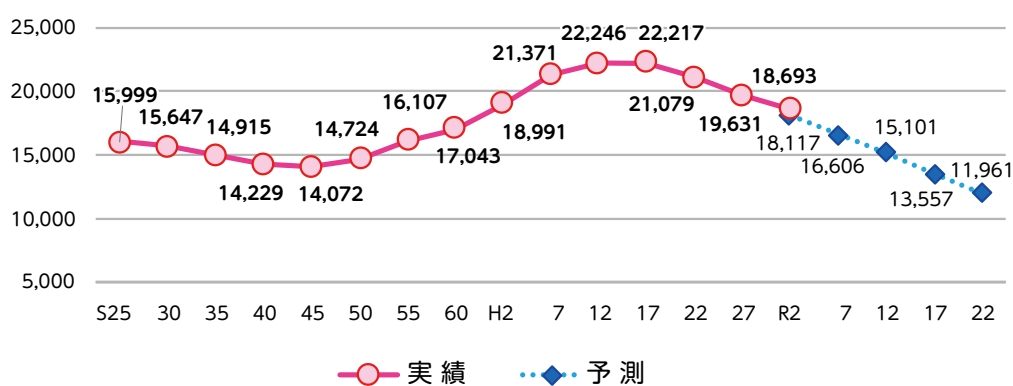
(p.13参照)



【まちの人口】

- ・ 昭和25年(1950)から平成27年(2015)までの数値は、国勢調査(各年10月1日が基準)の確定値です。
- ・ 令和2年(2020)10月の数値は、住民基本台帳の人口です。
- ・ 令和7年(2025)以降は、国立社会保障・人口問題研究所ⁱ(以下、「社人研」と略します。)が、国勢調査(平成27年度(2015))の結果に基づいて、吉見町の人口推移を予測し、公表している数値を引用しています。

過去の人口推移及び社人研予測



※町は、平成27年(2015)に様々な条件下のシミュレーションに基づいて、将来展望人口を推計し、「吉見町人口ビジョン」を策定しました。

平成27年(2015)10月から令和2年(2020)10月までの住民基本台帳人口の検証を踏まえ、「吉見町人口ビジョン」の将来展望人口については、社人研予測に合わせた数値へ改訂します。

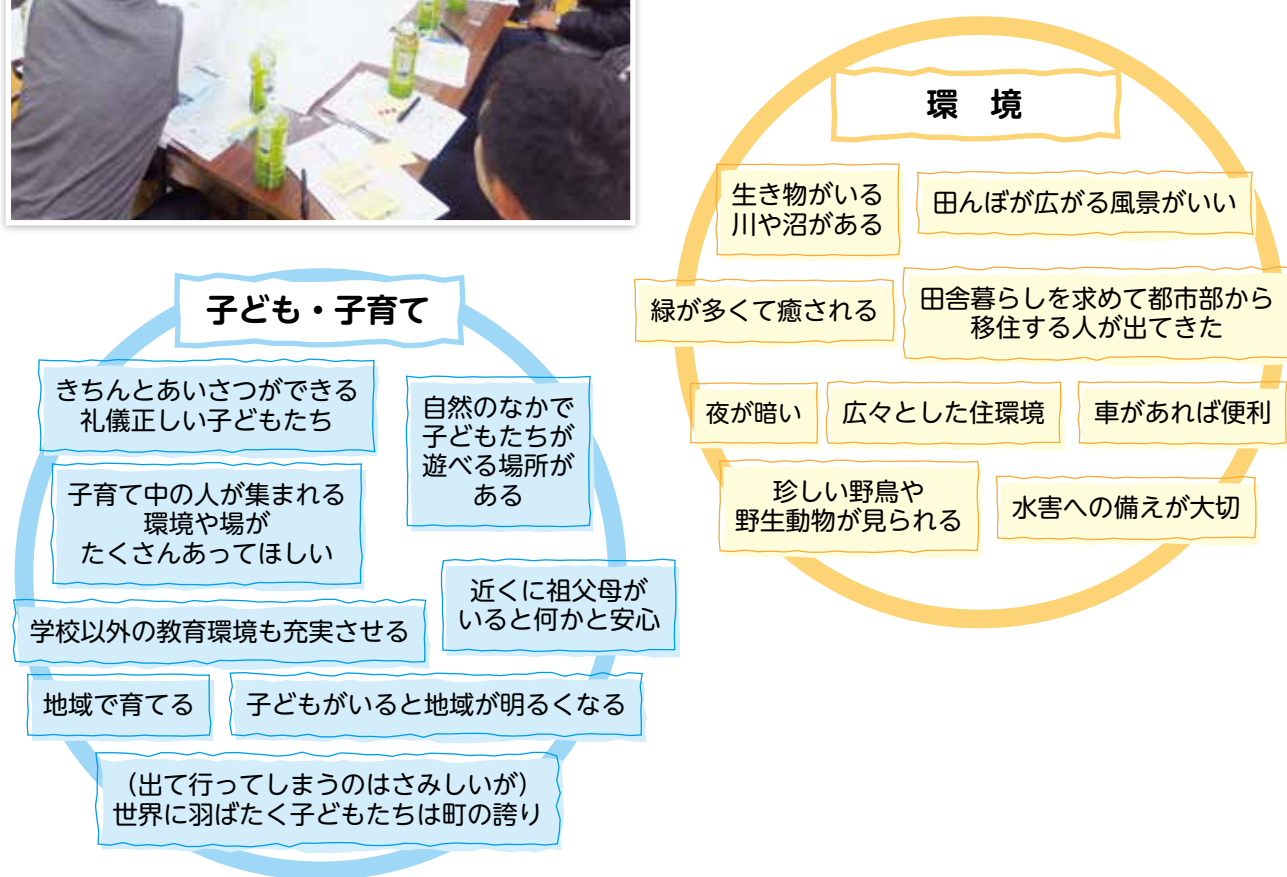
昭和45年(1970)頃まで、町の人口が減少していた時期があるんだね。
社人研の予測どおりなら、10年後の人口は昭和50年(1975)頃(約45年前)と同じくらい。

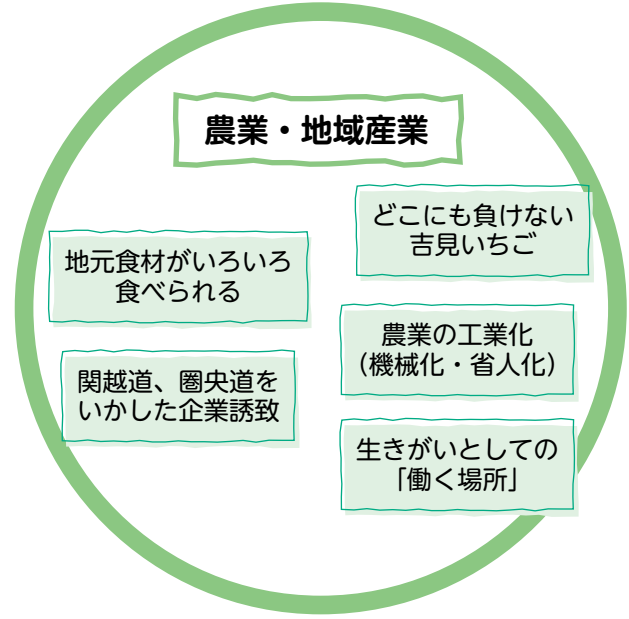
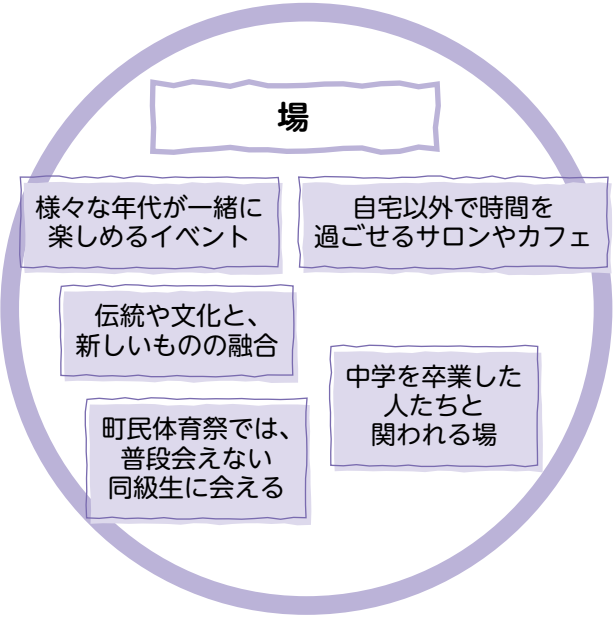
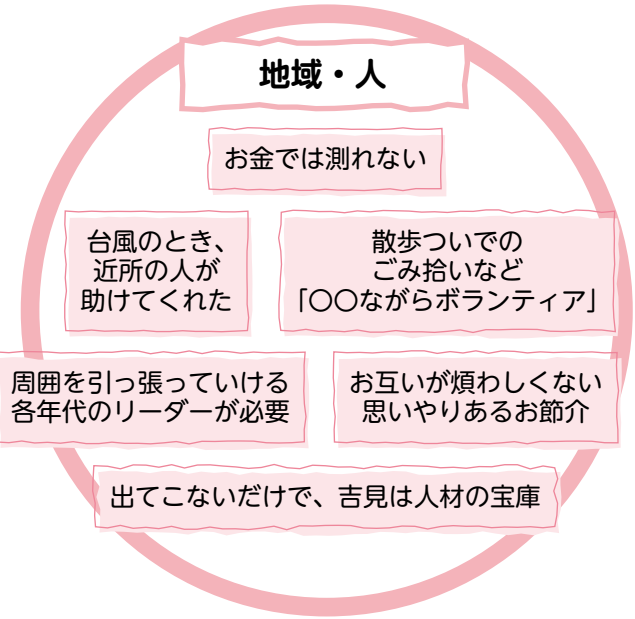


ⁱ 国立社会保障・人口問題研究所／厚生労働省の施設等機関。人口・経済・社会保障の相互関連についての調査研究を通じて、国民の福祉の向上に寄与することを目的としている。

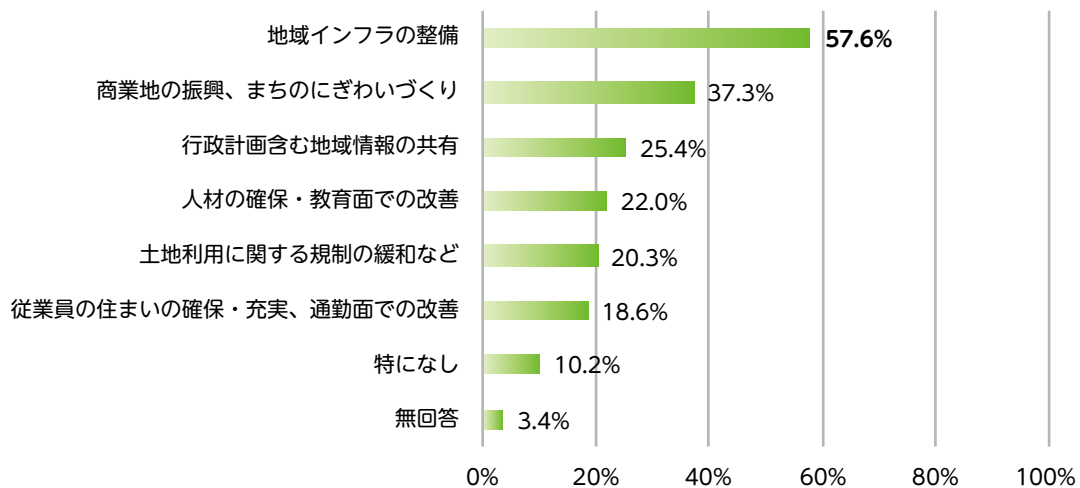
2. 町民のニーズ（守りたいもの・育てたいもの・求めているもの）

■ワークショップ





■町内事業者が求めていること（事業者アンケート）



※選択肢は表記の都合上、調査票の文言を一部簡略化

【事業者アンケート自由記述】（一部抜粋）

キーワード	具体的な要望・ご意見
人材	人材確保に苦労しており、人材に関する情報がほしい
公共交通	町外から来る人たちの交通利便性を向上させてほしい
土地利用	事務所や倉庫、工場を増設する際に利用できる商業用・工業用の区画が町内に必要（成長企業の町外転出を危惧する）
活性化提案	町の発展は周辺地域との連携が必要。周辺の魅力も発信し、地域全体を盛り上げる活動をお願いしたい
	県道4車線化に合わせた地域活性化のため新事業、新施設を検討してほしい
インフラ	町の核をつくってほしい
	道路や用水路の整備、環境美化など、町内をもっときれいに


町民の希望と似ているものがあるね。
企業や、町外から吉見町へ来る人にも
居心地のよいまちになると良いな。



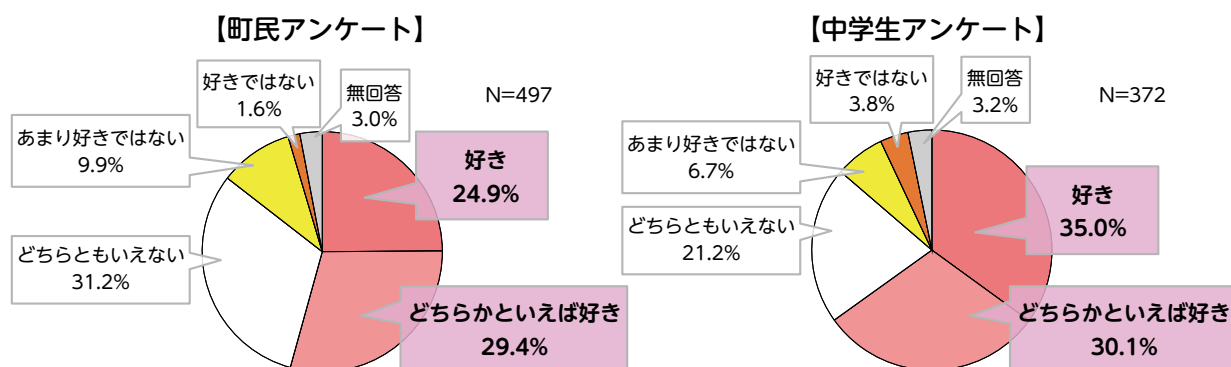
3. 吉見町の可能性と課題

致命的な欠点是对应が必要ですが、10年先、20年先を考えたとき、短所克服だけではなく、長所伸展による「吉見ならではの」のまちづくりを進める視点も欠かせません。

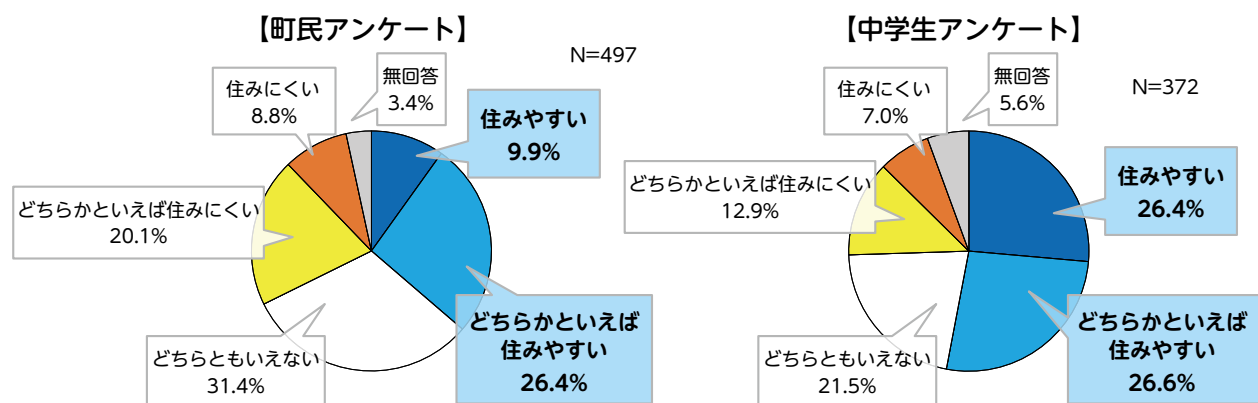
みなさんは、吉見町のどんなところが良くて、どんなところが物足りないと感じていますか。そして、吉見町にはどんな可能性があるのか見てみましょう。

 吉見町のみなさんに聞きました!

■吉見町のことが好きですか



■吉見町を住みやすいまちだと思いますか



大人よりも中学生の方が高評価!
「住みやすい」とは思わないけど
「好き」と感じている人もいるんだね。



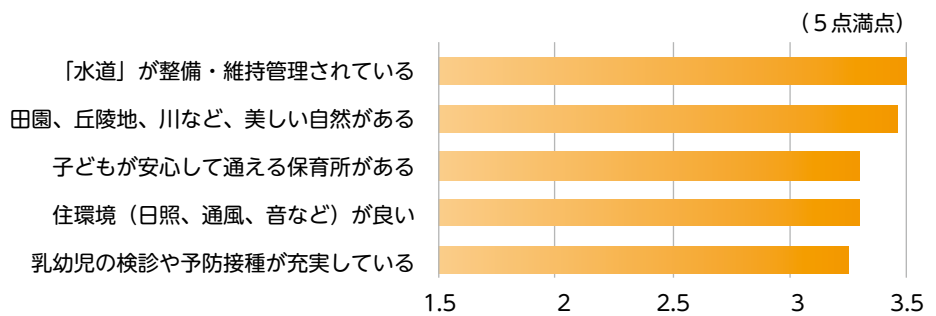
? 吉見町にはどんな可能性があるの？

A アンケートやワークショップを通じて、多くの方が「満足している」「守りたい／残したい」と答えたもの・ことがあります。

■町民の満足度評価が高い項目（まちづくりアンケート） ※一部項目名は簡潔化

高評価

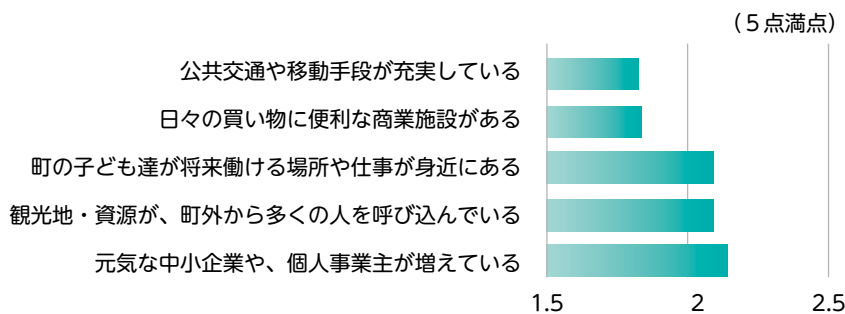
田園風景などの自然について満足している人が多い



■町民の満足度評価が低い項目（まちづくりアンケート） ※一部項目名は簡潔化

低評価

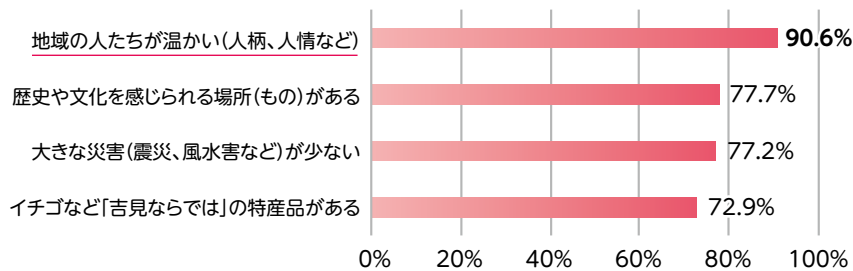
買い物と交通について満足していない人が多い



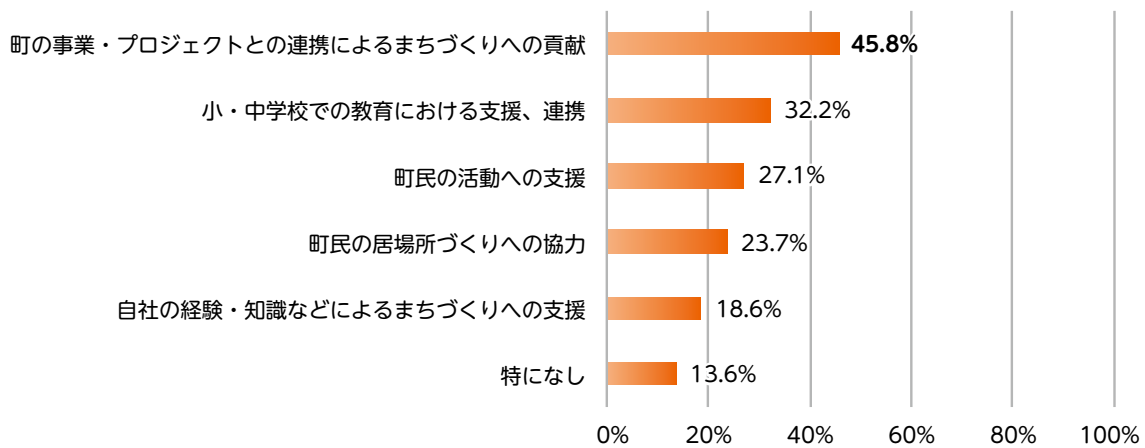
✍ 町の中学生はこう思っているよ!

Q. 吉見町のことをどう感じていますか。（中学生アンケート）

「あいさつをしてくれる」「地域の人優しい」と多くの生徒が感じている!



■町内事業者が「協力できる」と考えているまちづくり（事業者アンケート）



※選択肢は表記の都合上、調査票の文言を一部簡略化



「吉見町は何もない」と言われます。「駅」、「高速道路・国道」、「総合病院」、「ショッピングモール」など、「吉見町にないもの」を挙げればきりがありませんが、『のどかな田園風景』、『広々とした住環境』、『人と人のつながり』、『おいしいいちご』など、都市部では手に入れにくいものが、吉見町には当たり前にあります。

町内事業者が「協力できる」と考えているまちづくりの分野があり、「吉見は人材の宝庫」という意見も出てきました。

吉見町にないものを持っている他地域のマネではなく、吉見町にあるものを活かして、他地域がマネできないまちづくりができるのではないのでしょうか。

4. 吉見町を取り巻く社会の変化



- 人口減少が顕著に
- 団塊世代ⁱⁱが75歳以上に
- 段階的に税収が減少
- 団塊ジュニアⁱⁱⁱが65歳以上に●

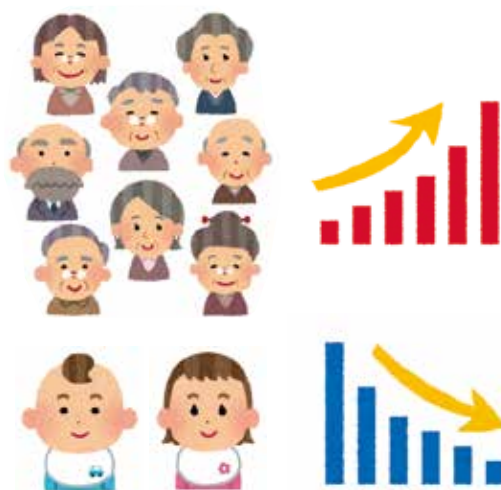
人口減少のほかにも、今起きていて、その影響がまだはっきりと表れていないものがいくつかあります。

次の6つは、今後のまちづくりにおいて、あらゆる分野にその影響が表れてくると考えられます。

① 少子高齢化

令和2年(2020)に75歳以上の町民は約2,800人ですが、令和12年(2030)には約4,000人になります。その後10年ほど4,000人前後で推移し、令和22年(2040)頃から徐々に減少していく見込みです。

令和2年(2020)に0歳の子どもたち約80人が二十歳になる年(令和22年(2040))に生まれる子どもの数は、約37人になる見込みです。



▼「高齢者の数が増えること」が町や生活に与える影響

- ・税収が増える(雇用がある場合)
- ・自分らしく過ごす時間が増える(健康な場合)
- ・豊かな知識、経験を持った人が増える
- ・税収が減る(雇用がない場合)
- ・老々介護が増える
- ・世代交代が進みにくくなる

▼「子どもの数が減ること」が町や生活に与える影響

- ・質の高い教育が実現できる(数から質へ)
- ・様々な効率化(自動・省人化、コンパクト化)
- ・環境に良い(CO₂減少、居住スペースの拡大)
- ・国際化が進行する(外国人労働者の増加)
- ・町の活気がなくなる
- ・農業の衰退(耕作放棄・担い手不足)
- ・商業の衰退(買い手の減少→市場縮小)
- ・空き家の増加

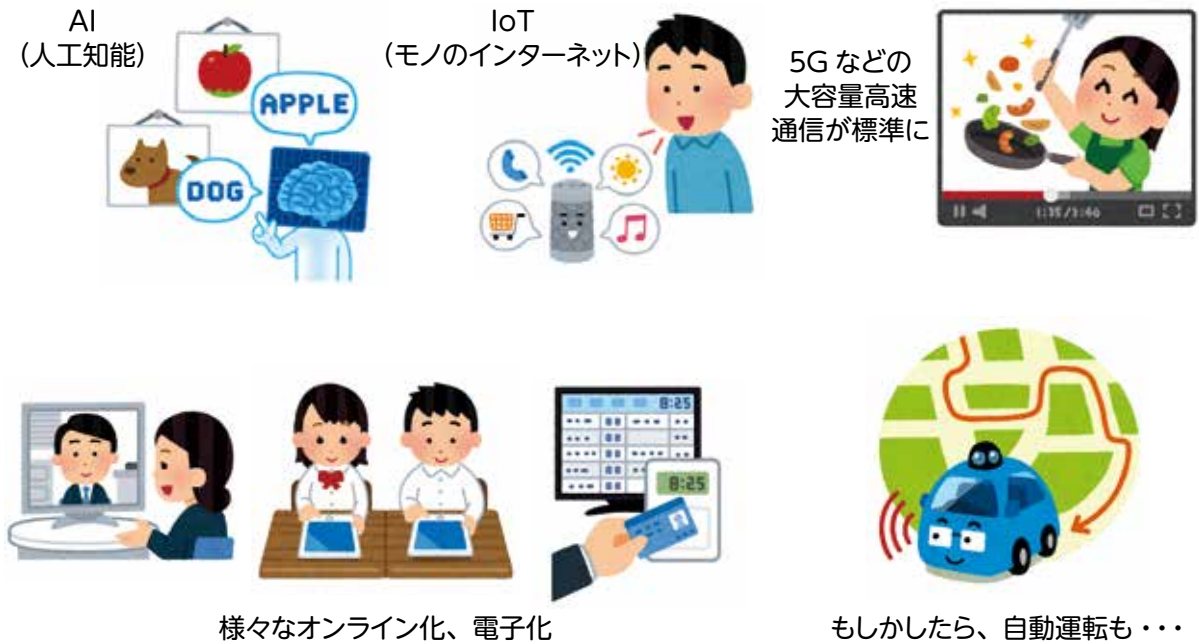
ⁱⁱ 団塊世代/昭和22年(1947)~24年(1949)生まれの世代(第一次ベビーブーム世代)。町民の約6.4%(約1,200人)を占める。

ⁱⁱⁱ 団塊ジュニア/昭和46年(1971)~49年(1974)生まれの世代(第二次ベビーブーム世代)。町民の約5.8%(約1,100人)を占める。

② 便利な技術（AI、IoT、5G など）の出現と普及

政府は、人口減少や少子高齢化による「労働力の減少」という課題を前に、人工知能（AI）、IoT（Internet of Things）、ビッグデータ^{iv}などを活用して、ロボットや自動走行車などの技術で、社会の変革（イノベーション）を通じて、経済発展と社会的課題解決の両立を目指す「Society5.0（ソサエティ5.0）」^vを提唱しています。

私たちの身の回りでも、便利な技術がどんどん「当たり前」になってきます。



▼ 「便利な技術が出現・普及すること」が町や生活に与える影響

- ・医療への活用（オンライン診療など）
- ・子育てへの活用（オンライン手続きなど）
- ・教育への活用（オンライン教育など）
- ・時間短縮（自由時間が増える）
- ・ペーパーレス（自然環境にもやさしい）
- ・買い物難民の減少（自動運転、自宅配送）
- ・コミュニティや人間関係の希薄化
- ・電力がないと何もできなくなる
- ・環境整備や初期投資のコストがかかる
- ・便利な技術を使える人／使えない人の格差
- ・個人情報の流出、漏えい

^{iv} ビッグデータ／一般的なデータ管理・処理ソフトウェアで扱うことが困難なほど巨大で複雑なデータの集合を表す用語。蓄積したビッグデータを分析することで、高精度な予測が可能になるなど様々な分野での利活用が検討されている。

^v Society 5.0／狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(同 2.0)、工業社会(同 3.0)、情報社会(同 4.0)に続く超スマート社会(同 5.0)で、日本が目指すべき未来社会の姿とされる。

③ 自然や環境の変化

- ・ 自然災害（地震、豪雨など）が頻発し、大規模化（数十年に一度が毎年のように起こる）
- ・ 災害ハザードエリアにおける防災・減災対策に関わる国の動向
- ・ 地球温暖化などの気候変動
- ・ 新型コロナウイルスなど、新たな感染症の世界的流行
- ・ プラスチックごみの輸出入等に関わる国際的な規制の強化
→国内では 2040 年代に（ごみ）最終処分場が足りなくなると予測されています。

▼「自然や環境の変化」が町や生活に与える影響

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| ・ 防災意識の向上 | ・ 災害対策や復旧等に関わるコストの増大 |
| ・ 「エコ」に対する意識の高まり | ・ 農作物の生育不全
（気候、病害虫、害獣など） |
| ・ 災害に強い施設等への更新 | ・ 環境保全と経済活動の摩擦 |

④ 人々の意識（価値観）の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染症による意識の変化
→ 「密」を避けるために地方の価値が見直されています。
- ・ 働き方改革
- ・ 「オンリーワン」志向、「ナチュラル」志向など
→ 人と同じであることや、経済的効率性のみを必ずしも求めない価値観
- ・ 誰もが活躍できる社会
→ 一人ひとりが、個性と多様性を尊重され、家庭で、地域で、職場で、それぞれの希望がかない、それぞれの能力を発揮でき、それぞれが生きがいを感じることができる「一億総活躍社会」
- ・ 新しい学習指導要領で育った子どもたちが社会人に
→ ICT 環境が整備された学校で、プログラミングなどの情報活用教育を受けた人材が社会に増えます。

▼「人々の意識（価値観）の変化」が町や生活に与える影響

- | | |
|--|-------------------------------------|
| ・ 新しい生活様式 | ・ 経済活動の減退や収入の減少 |
| ・ オンラインやテレワークの推進 | ・ 価値観の対立や世代間の摩擦
（コミュニケーション不足の場合） |
| ・ 「ワーク・ライフバランス」から「ライフ・ワークバランス ^{vi} 」へ | ・ 他人への不干渉による孤立やコミュニティの希薄化 |
| ・ 多様な人材や新旧世代の融合による革新
（コミュニケーションが良好な場合） | |

^{vi} ライフ・ワークバランス／ワーク・ライフバランスの「ライフ」と「ワーク」をあえて逆にし、一人ひとりの人生や生活と、収入を得ることや生きがいを感じる仕事のバランスを調和させていこうとする考え方

⑤ 経済を取り巻く環境の変化

- ・ グローバル化の進展
- ・ 世界人口の増加
 - 国連は、令和元年（2019）に77億人の世界人口が令和12年（2030）には85億人、令和32年（2050）には97億人に増えると予測しています。人口が爆発的に増加する国や地域がある一方で、日本を含む55の国と地域が令和32年（2050）までに人口減少を経験する見込みです。
- ・ 就業構造の変化
 - 「今の子どもたちの65%は、大学卒業時に、今は存在していない職業に就く」、「今後10～20年で、雇用者の約47%の仕事が自動化される」といった予測^{vii}
- ・ インフラ（道路、上下水道、各種公共施設など）の老朽化
 - 日本の経済成長率が5%以上で推移していた平成2年（1990）前後までに建設された施設が、大規模修繕等が必要となる築後40～50年を迎えます。

▼ 「経済を取り巻く環境の変化」が町や生活に与える影響

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ・ 国際市場や世界市場が身近に | ・ 金融問題の世界への波及 |
| ・ 海外からの移民が増える（担い手不足解消） | ・ 収入格差の増大 |
| ・ 多様な働き方が出現 | ・ 老朽化したインフラの維持管理コストが増大 |
| ・ 建替えや更新を機としたより良いインフラ整備 | |



^{vii} 文部科学省「教職員等の指導体制の在り方に関する懇談会提言」より一部引用

⑥ 「持続可能な社会」の実現（SDGs）に向けた取組の世界的な広がり

SDGs（エス・ディ・ジーズ）とは…

「サステイナブル Sustainable ディベロップメント Development ゴールズ Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、国連加盟 193 か国が平成 28 年（2016）～令和 12 年（2030）の 15 年間で達成するための目標として、平成 27 年（2015）9 月の国連サミットで採択されたものです。

SDGs には、一人ひとりがそれぞれの立場で、世界をより良くするためにできることを考え、取り組むことができるよう 17 のゴール（目標）と 169 のターゲットが示されています。我が国においても、「SDGs アクションプラン 2019」が策定され、豊かで活力のある「誰一人取り残さない」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「人間の安全保障」の理念に基づき、世界の「国づくり」と「人づくり」に貢献していくこととされています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



発想の転換
変化をチャンスに!

 **これだけは押さえよう!**

今後 10 年、20 年で起こる変化を、「課題」ではなく
『まちづくりの機会』として活かす視点でとらえてみましょう



第2部 基本構想

令和3年度（2021）
～
令和12年度（2030）

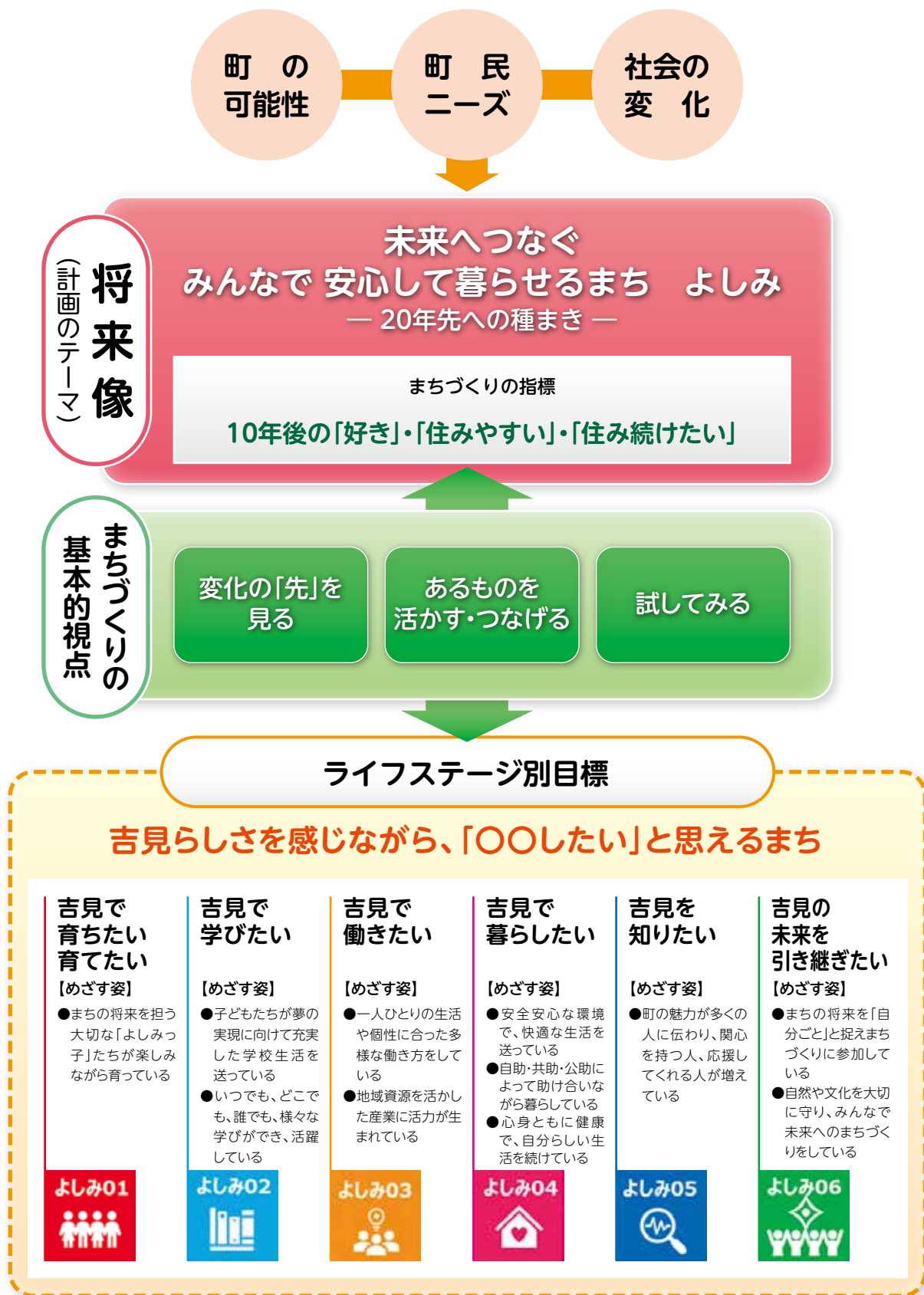
基本構想

- 将来像・まちづくりの指標
- 基本的視点
- ライフステージ別目標
- 人口規模とまちづくり
- 未来地図

基本計画

- ライフステージ別目標がめざす姿
- 評価指標
- めざす姿を実現するための取組


第1章 基本構想体系図

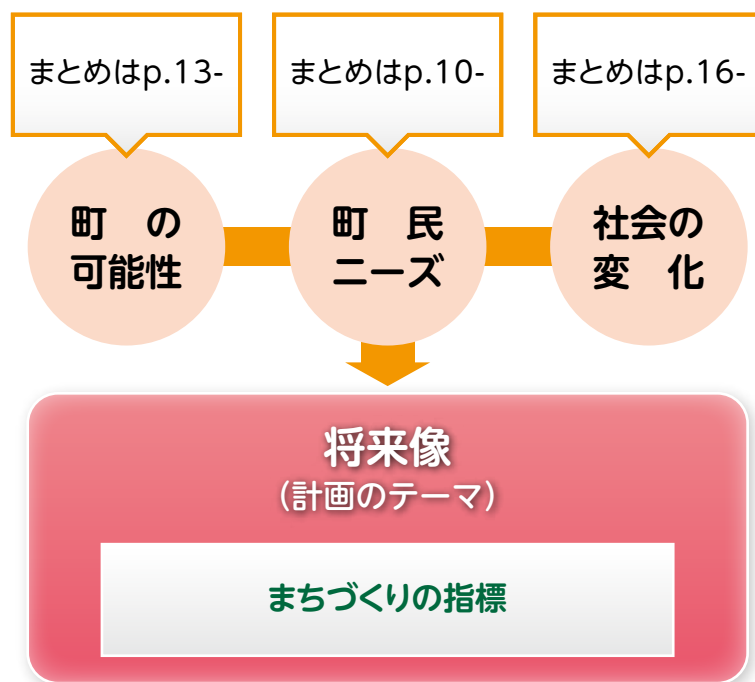


第2章 将来像とまちづくりの指標 (KGI^{viii})

まちづくりには、みんなで共有する「吉見町をこんなまちにしていきたい」というイメージや目標が必要です。吉見町ではどんなまちづくりをしていくか、説明します。

? 吉見町は、何を目指しているの?

 この計画は、今後の人口推移予測^{ix}などに基づいて、10年後を「ゴール」ではなく、20年先への「通過点」という考え方で整理しています。吉見町の可能性、これから予想される社会の変化、町民のみなさんの想いをもとに、「20年先を見据えて、こういうまちづくりを進めよう」というイメージを『将来像（計画のテーマ）』としてまとめました。



そして、実際に将来像へと近づいているのか、それを確認する目安として「まちづくりの指標 (KGI)」を設定します。

^{viii} KGI (ケー・ジー・アイ) / 重要目標達成指標、「Key Goal Indicator」の略。過程を評価する中間指標 KPI (ケー・ピー・アイ / 重要業績評価指標・Key Performance Indicator) に対して、KGI は最終目標という違いがある。

^{ix} 人口推移予測 / 詳しくは第5章「人口規模とまちづくり」を参照

将来像

(計画のテーマ)

未来へつなぐ
みんなで安心して暮らせるまち よしみ
—20年先への種まき—

将来像にこめた想い

未来へつなぐ

人口減少や少子高齢化が進行するなかでも、「一人ひとりが未来に希望を持てるまちにしよう」、「吉見ならではの自然や田園風景、人と人のつながり、伝統や文化など、大切にしてきたものを未来につなげていこう」、「次の世代が安心して引き継げる、引き継ぎたいと思えるまちづくりを進めていこう」という想いを、『未来へつなぐ』にこめています。

みんなで安心して暮らせるまち

自然災害、新型コロナウイルス感染症などの経験を通じて、お互いに助け合い、支え合いながら笑顔で過ごせる「ふつうの暮らし」がかけがえのないものであったと、多くの人が気付かされました。先の見えない不安を感じる時代だからこそ、便利さや物質的な豊かさはもちろん、お金では測れない安全や安心、心の豊かさも大切になっています。吉見町に関わる様々な人たちが、みんなで考え、みんなで助け合い、それぞれの幸せを実感しながら、安心して暮らせるまちを実現していこうという想いをこめています。

20年先への種まき

将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の人々のニーズも満足させる持続可能なまちづくりへの想いから、10年後のゴールではなく、10年後からスタートするまちづくりも見据えて、子どもや孫たちの世代のために、今から種をまいていこうという想いをこめています。

まちづくりの指標(KGI)

これからのまちづくりが、実際に将来像へと近づいているのかを確認するため、将来の吉見町に住む町民のみなさんの評価「好き」、「住みやすい」、「住み続けたい」をまちづくりの指標にします。

ポイントは「10年間、何をどれだけやったか」ではなく、「それらの取組をした町を、10年後、人がどう感じるか」という基準でまちづくりを測ることで。

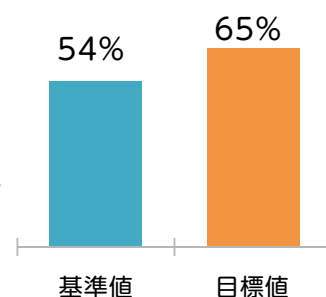
3つの指標(基準値と10年後の目標値)

● 吉見町のことが好き

吉見町が好きだと感じている町民の割合は、現状から約10ポイントの向上を目指します。

※アンケート設問内容

あなたは、吉見町のことが好きですか？
(「好き」、「どちらかといえば好き」の合計)

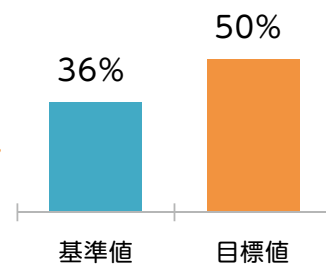


● 吉見町は住みやすい

住みやすいと感じている町民の割合は、50%水準を目指します。

※アンケート設問内容

あなたは、吉見町を住みやすいまちだと思いますか？
(「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計)

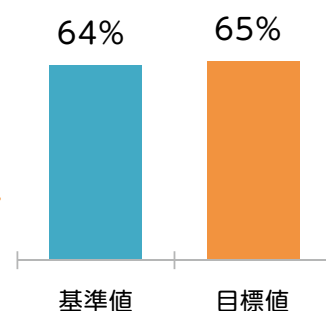


● 吉見町に住み続けたい

住み続けたいと思っている町民の割合は、現状維持を目指します。

※アンケート設問内容

10年後、あなたは吉見町に住んでいると思いますか？
(「住んでいる」、「多分、住んでいる」の合計)



❓ どうして、『好き』、『住みやすい』、『住み続けたい』、全部 100%を目指さないの？

💡 様々な調査から『好き』と『住みやすい』は必ずしもイコールではない、ということが分かってきました。

例えば、『好き』の理由である「自然」、「広々とした風景」などが、そのまま「何もない」、「不便」など、『住みにくさ』の原因として出てきます。吉見町のまちづくりでは、人口減少と少子高齢化が同時に進行するなかで、『好き』を失うことなく、『住みやすい』を向上させるバランス感覚が必要です。



❓ 『住み続けたい』の目標が、現状維持はどうして？

💡 進学や就職、結婚などを機に吉見町を離れる人が多いことについて、「さみしい」という声が聞かれる一方、ワークショップでは「有名人など、世界に羽ばたく人材は町の誇り」、「Uターンして、吉見の良さに気付いた」という意見がありました。

町外へ出ることにプラスの側面があり、一度町外に出ても、人生の様々なタイミングでまた吉見町に戻ってくる方がいます。

『ずっと住み続けますか』の答えが「No」で町を離れることがあっても、『好き』や『住みやすい』が「Yes」なら、「ただいま／おかえりなさい」と迎えられる割合は増えていくはずです。

また、『好き』、『住みやすい』の向上は、町民の『定住意向』に加えて、Iターン^xやJターン^{xi}など、町外からの移住意向も高めていくと考えています。

❓ それじゃあ、『好き』や『住みやすい』が向上する対策を、どんどんやるの？

💡 そうですね。そうなるように、みんなで一緒に頑張っていきましょう。でも、大切なのは「将来像」に近づいていくことです。『好き』や『住みやすい』が向上しても、未来へつなげない、みんなが安心して暮らせないとしたら、それは私たちが本当にやりたいまちづくりではないかもしれません。

^x Iターン／豊かな自然や穏やかな生活環境などを求めて、出身地と異なる土地へ移住すること

^{xi} Jターン／生まれ育った故郷から進学や就職で一旦都市部に移住した後、故郷に近い土地（出身地とは異なる）へ移住すること

特別
企画

未来へつなぐ みんなの想いを大募集

あなたの

「○○したい」

1



第3章 基本的視点

将来像の実現に向けたまちづくり、各種の取組を進めていく上での「基本的視点」を、次のように定めます。

①変化の「先」を見る

社会や時代は、じっと待ってくれません。私たちが対策を考えている間にも、どんどん変化していきます。一過性のブームを「変化」と見誤り、振り回されてしまうことも珍しくありません。

人口減少と少子高齢化の進行、便利な技術や機器の普及、自然環境や価値観の変化など、様々なことが影響して私たちの生活も、今とは変わっていきます。

これまでと今の違いだけでなく、10年後は何が変わるのか、20年先はどうなっていくのか、いま起こっている変化の「先」に目を向けてみましょう。変化の「先」を見て準備や調整ができれば、変化を恐れずに未来を迎えることができます。



②あるものを活かす・つなげる

島根県隠岐諸島にある人口約2,300人の町「海士町」(あまちょう)は、平成23年(2011)に「ないものはない」を宣言し、あるものを磨く独自のまちづくりを進め、いま地方創生のトップランナーになっています。



吉見町にも、自然や風景、歴史・文化、特産品の吉見いちごなどの誇れる地域資源があり、町民、事業者、各種団体など、年齢や性別、立場にかかわらず、まちづくりに関わる様々な人たちがいます。

気付いていないだけで、未来につながるまちの個性や魅力の種を、私たちはもう手にしているかもしれません。



③ 試してみる

社会や時代の変化によって、今まで成功していた方法が通用しなくなることがあります。変化の「先」を見て、あるものを活かし・つなげる方法を考えても、それが思ったとおりの結果につながるかは、誰にも分かりません。

何が起こるか、あらかじめすべてを正確に予測できない状況では、本格的に踏み出す前に「試してみる」ことが大切です。

やってみる、やめてみる、増やしてみる、減らしてみる…など、実際に試すことで、初めて分かることがあります。事前の予想と異なる結果が出ても、その教訓や経験を活かした修正や調整、もう一度「試してみる」など、より良い次の一步を踏み出していくことができます。



3つの視点に気をつけながら
まちづくりを進めるんだね。



島根県隠岐郡海士町の「ないものはない」宣言

この言葉には、「①無くてよい」、「②大事なことはすべてここにある」という二重の意味があるそうです。

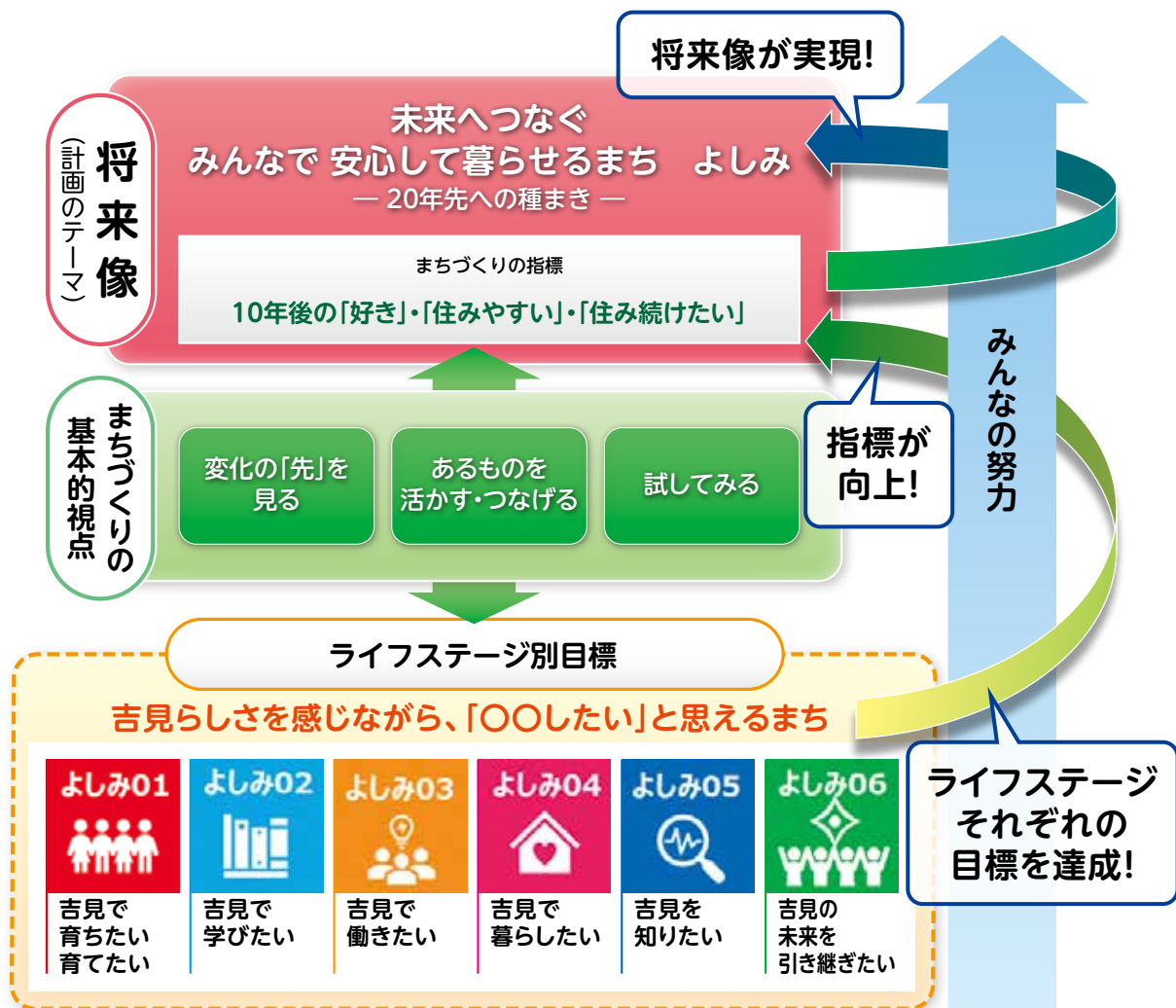
地域資源を活かした特産品づくり（島じゃ常識さざえカレー、海士乃塩など）に加えて、島全体をキャンパスに見立て、町の課題解決や交流体験を通じて学ぶ「海士大学構想」など、人づくり分野でも「あるもの」を磨く独自の取組を続けています。平成16年（2004）以降の14年間で428世帯、624人が島に移住するなど、新しい挑戦をしたいと思う若者たちが集う離島として、注目を集めています。

第4章 ライフステージ別目標

? 何となく分かってきたけど・・・、「未来へつなぐ」とか、「20年先への種まき」とか、
 壮大すぎてピンとこないな。

A いきなり『将来像』を実現するのは大変です。一つひとつ未来への種をまいて、取組を進めていけるように、一人ひとりが「〇〇したい」と思えるようになることを目標とする6つのライフステージを設定しました。

各ステージの取組によって、10年後の『好き』、『住みやすい』、『住み続けたい』が向上すると、それが『将来像』の実現につながります。









🍓 これだけは押さえよう!

まずはあなたが興味を持ったステージからのぞいてみましょう!

自分の将来像も考えると楽しいです♪

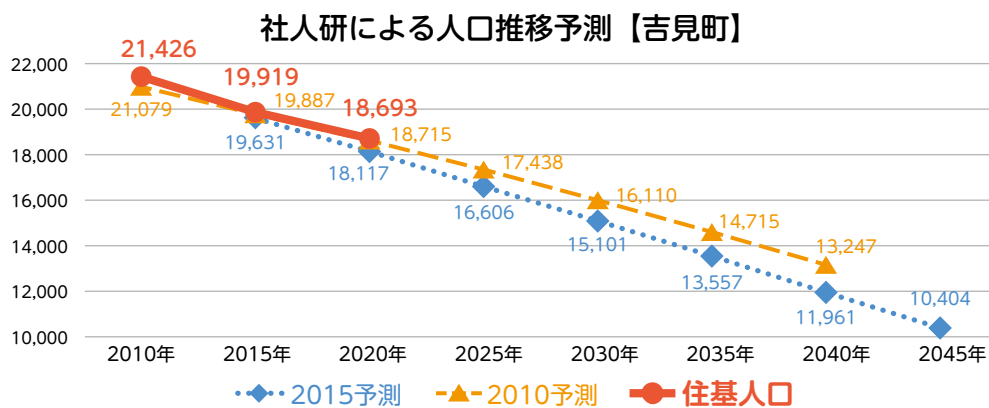
みんなで進めるまちづくりの目標となる6つの「ライフステージ」と、それぞれの「めざす姿」は次のとおりです。

	ライフステージ別目標	めざす姿
吉見らしさを感じながら、「〇〇したい」と思えるまち	 <p>よしみ01 吉見で 育ちたい 育てたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まちの将来を担う大切な「よしみっ子」たちが楽しみながら育っている
	 <p>よしみ02 吉見で 学びたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが夢の実現に向けて充実した学校生活を送っている ●いつでも、どこでも、誰でも、様々な学びができ、活躍している
	 <p>よしみ03 吉見で 働きたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの生活や個性に合った多様な働き方をしている ●地域資源を活かした産業に活力が生まれている
	 <p>よしみ04 吉見で 暮らしたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●安全安心な環境で、快適な生活を送っている ●自助・共助・公助によって助け合いながら暮らしている ●心身ともに健康で、自分らしい生活を続けている
	 <p>よしみ05 吉見を 知りたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●町の魅力が多くの人に伝わり、関心を持つ人、応援してくれる人が増えている
	 <p>よしみ06 吉見の未来を 引き継ぎたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まちの将来を「自分ごと」と捉えまちづくりに参加している ●自然や文化を大切に守り、みんなで未来へのまちづくりをしている

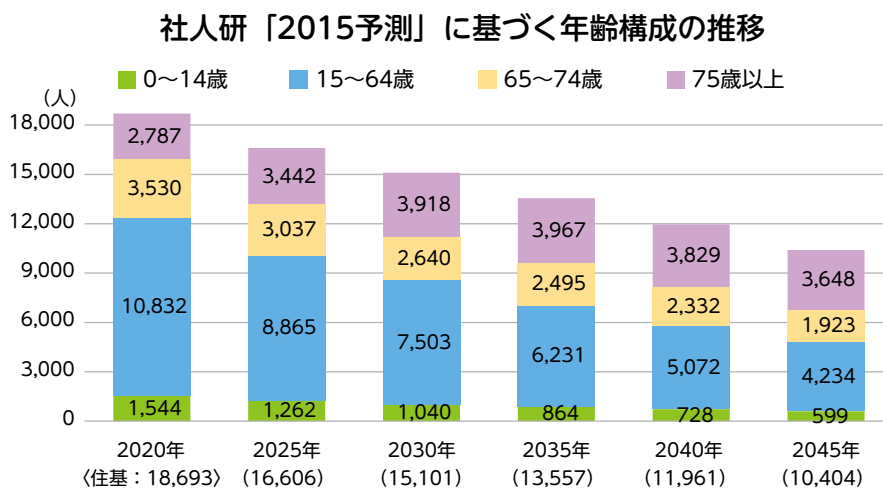
第5章 人口規模とまちづくり

? 基本的視点を意識しながら、「〇〇したい」と思えるまちづくりをみんなで頑張るのは分かったけど、これから人口が減っていくなかで、本当にできるの？

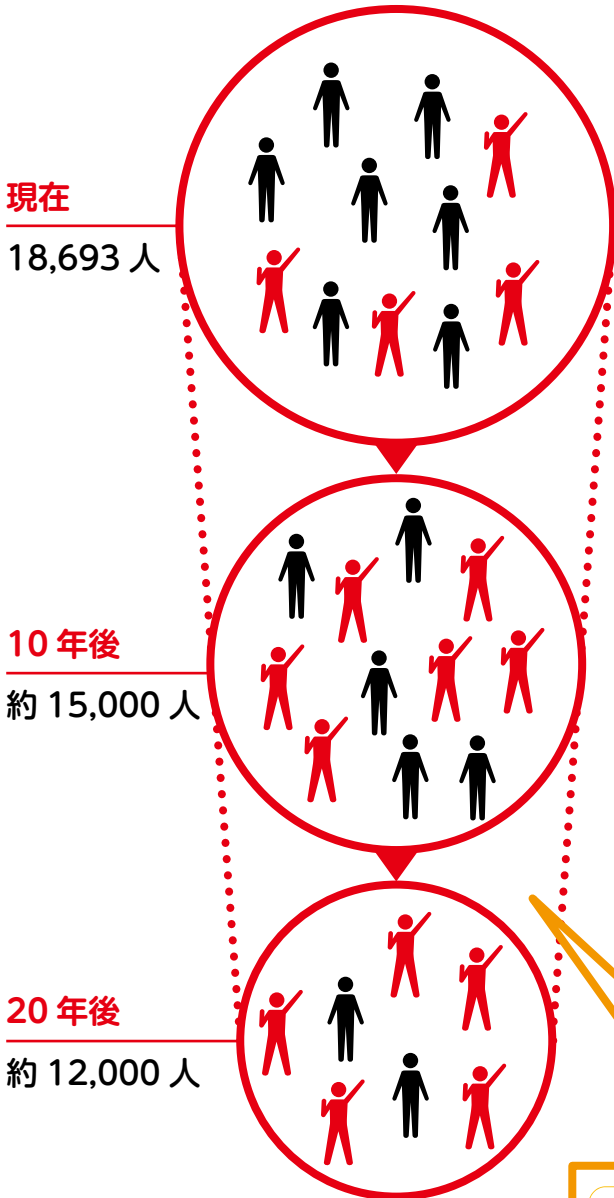
A 確かに、吉見町の人口は減っていきます。
人口減少が令和12年（2030）以降も進行していくことを踏まえて、この計画は、10年後を「ゴール」ではなく、20年先への「通過点」と考えています。



これまでの住民基本台帳人口は、社人研^{xii}の「2010 予測」に近い値で推移してきましたが、平成30年（2018）に公表された最新の「2015 予測」では、吉見町の年齢構成は、次のように推移していく見込みです。



^{xii} 社人研／国立社会保障・人口問題研究所。人口・経済・社会保障などの調査研究を行う厚生労働省の施設等機関。国勢調査の結果に基づき、全国の自治体の予測人口を公表している。



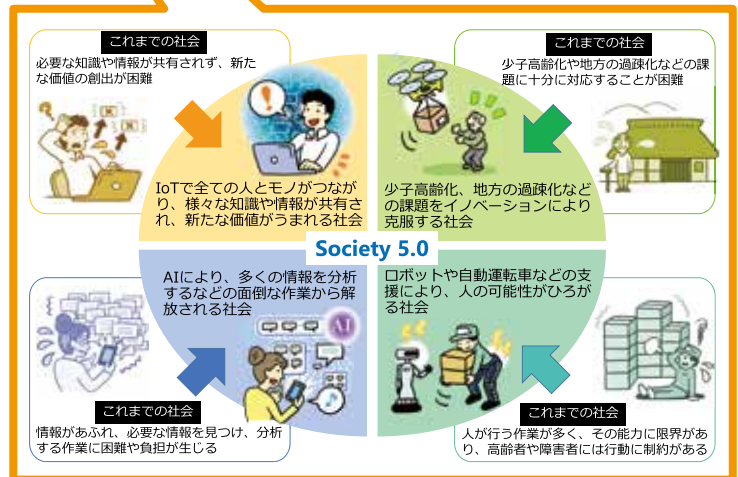
○ 吉見町の人口規模

人 により良いまちにしていけるために活動している人

💡 左の図は、より良いまちにしていけるために活動する人が増え、その人たちを応援する人が増えていくことで、人口規模が縮小しても、より良いまちになっていくまちづくりのイメージ図です。

また、これからのまちづくりは、すべて人の力でやろうとするのではなく、便利な技術などを活用していくことも大切になります。

**人の力に加えて
便利な技術も
活用していくことが大切です**

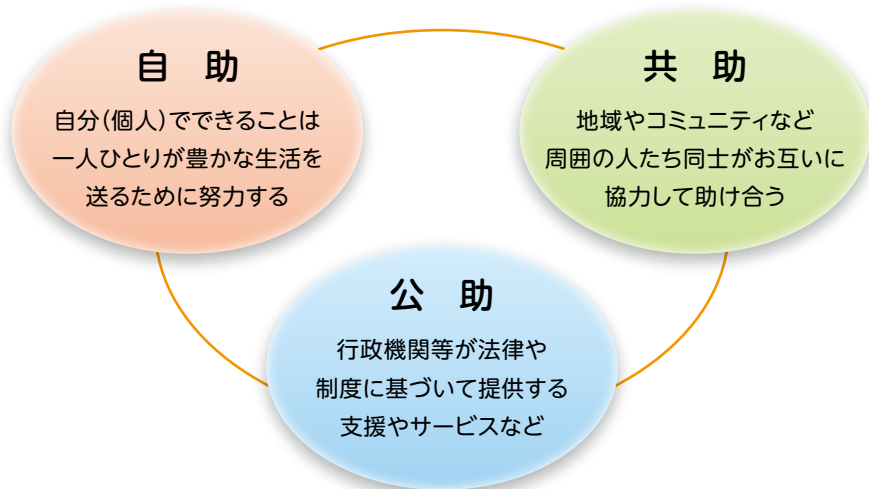


🍓 これだけは押さえよう!

「大きく・多く」にこだわらず、「より良く」を目指しましょう

? 私は中学3年生だから、10年後は25歳。人口がそのまま減ったら…と不安だったけど、人口が減っても、より良いまちづくりや快適な暮らしをする方法はあるんだね！
役場のみなさん頑張って!!

A もちろん、役場の職員も頑張ります！
でも、行政の力だけでは、一人ひとりの多様な「〇〇したい」は実現できません。ちょっと難しい言葉になりますが、これからのまちづくりは、「自助」、「共助^{xiii}」、「公助」（下図参照）がそれぞれ役割を果たしながら、お互いに連携・協力して進めていくことが大切になってきます。みなさんの協力が必要です。



? じゃあ、私たちができることってなんだろう？

まちづくりって…
何をすればいいのかな。

家の周りのごみ拾いをしたら、
これもまちづくりなんだよ…ね？



A はい、そのとおりです!!
まちがきれいになれば、「暮らしたい」と思う人が増えること、豊かな自然や環境を、次の世代に引き継ぐことにも、きっとつながります。

^{xiii} 共助／「共助」を更に2つに分類し、身近な人同士の助け合い・支え合いを「互助」、医療・年金・介護など、被保険者が負担する保険料によって、加入者へのサービスを提供する相互扶助制度を「共助」とする場合もあります。

特別
企画

未来へつなぐ みんなの想いを大募集

あなたの

「〇〇したい」

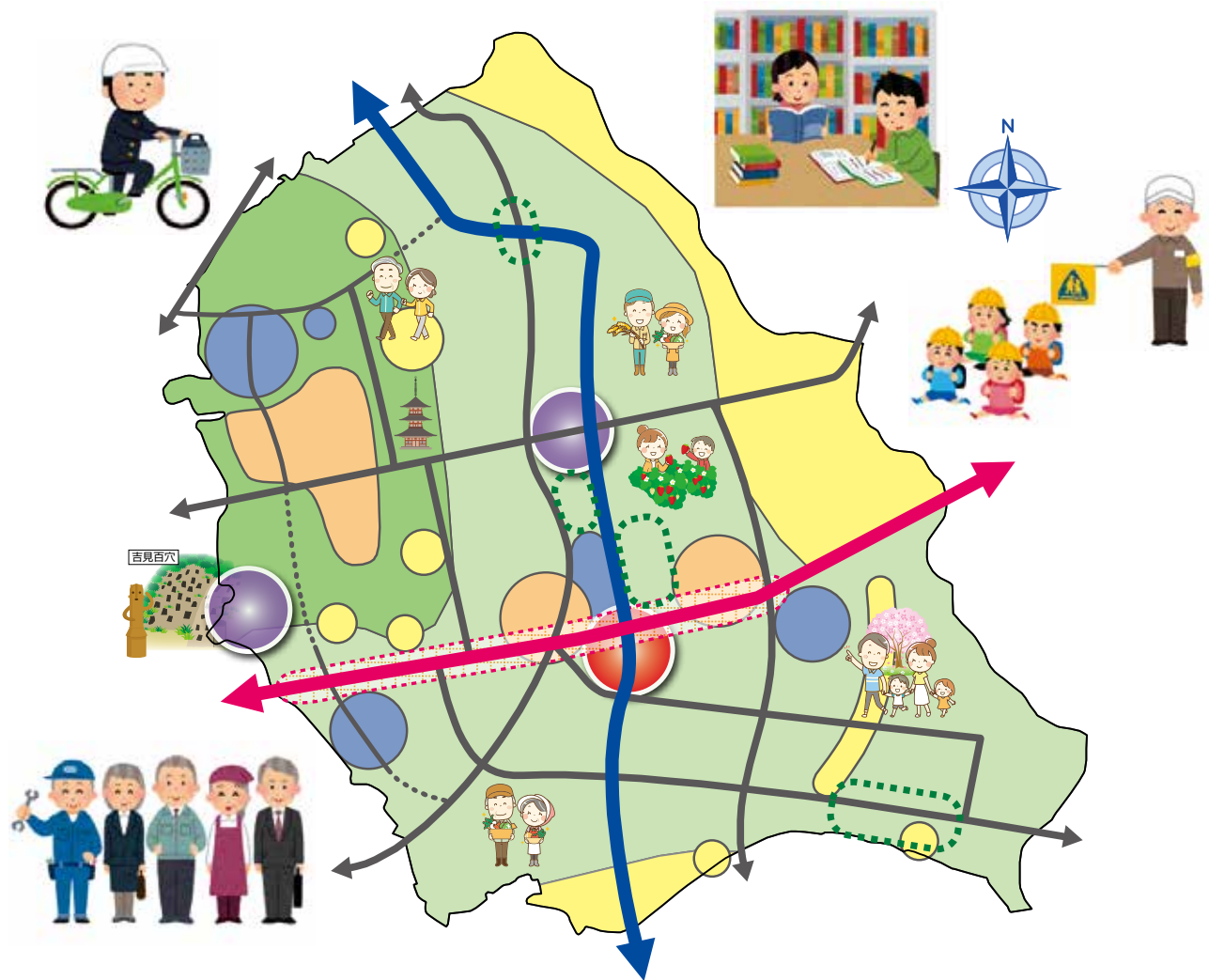
2



第6章 未来地図 —土地に、人の生活・想いを重ね合わせる—

人口が減少しても、土地の広さは変わらない点を踏まえ、充実したまちづくりや、より快適な暮らしの実現に向けて、従来の「土地利用」(ゾーニング)に「人の生活・想い」を重ね合わせ、将来を見据えたまちの基盤・環境づくりの指針として『未来地図』を定めます。

『未来地図』は、吉見町ならではの生活、町民の「守りたい」「育てたい」という想いを大切にしながら、「こんなまちにしていこう」、「吉見町でこういう暮らしを実現しよう」という方向性(意思)を見える化したものです。



凡例					
	東西の基軸(4車線道路)		産業交流拠点		住居系ゾーン
	南北の基軸(主要幹線道路)		文化・まちおこし拠点		農業系ゾーン
	幹線道路		沿道活性化ゾーン		工業系ゾーン
	計画道路		活用検討エリア		スポーツ・レクリエーション系ゾーン
					緑地系ゾーン

■産業交流拠点

東西、南北の交通アクセスの良さを活かして、農商工・観光の連携による魅力とにぎわいを生み出し、町内外から多くの人々が訪れる拠点として、現在の機能拡充に加えて、商業系施設の整備に向けた取組を進めます。

■文化・まちおこし拠点

図書館等複合施設の活用を図るとともに、史跡を訪れたり、イベントに集う人々の交流を図り、まちの芸術文化の継承と発展の中心とします。

■沿道活性化ゾーン・・・県道4車線化を活かす

4車線化する県道東松山鴻巣線の沿道は、地域全体の活性化、交通安全などを含めた町民の暮らしやすさの向上にむけて、道路整備と併せた土地利用を検討します。

■活用検討エリア・・・未来への種まき

時代や社会の情勢、住環境や営農環境との調和、地域の特性などを踏まえて、吉見町に適した産業への活用も含めた将来の土地利用について、幅広く検討します。

■住居系ゾーン

市街化区域は、良好な住環境を備えた市街地形成に努めます。丘陵部の住宅団地は、適正な宅地化への誘導とともに住環境の改善に努めます。

■農業系ゾーン

農業の振興を図るため、農用地の保全と有効活用に努めます。また、農道や用排水路を整備し、美しい田園景観の保護と創出に努めます。

■工業系ゾーン

工業・物流業の振興を図るため、工業用地の整備を企業立地と併せて促進します。また、交通基盤と用排水の整備を進めます。

■スポーツ・レクリエーション系ゾーン

八丁湖公園、吉見総合運動公園やサイクリングロードなどスポーツやレクリエーションを楽しむことができるよう整備を進めます。

■緑地系ゾーン

丘陵部は、文化財や自然の宝庫であることから、みどりの保全に努めます。

町民の想い・・・

守りたいもの	育てたいもの
<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然、のどかな田園風景 ・特産品の吉見いちご ・一人ひとりの健康 ・歴史や文化を感じられる場所 ・地域のお祭り、など 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもたち ・身近で買い物ができる商業施設 ・誰でも気軽に集まれる居場所 ・町外から人を呼び込める場所や施設 ・生きがいを感じられる仕事、など



第3部 前期基本計画

令和3年度（2021）
～
令和7年度（2025）



基本構想

- 将来像・まちづくりの指標
- 基本的視点
- ライフステージ別目標
- 人口規模とまちづくり
- 未来地図



基本計画

- ライフステージ別目標がめざす姿
- 評価指標
- めざす姿を実現するための取組

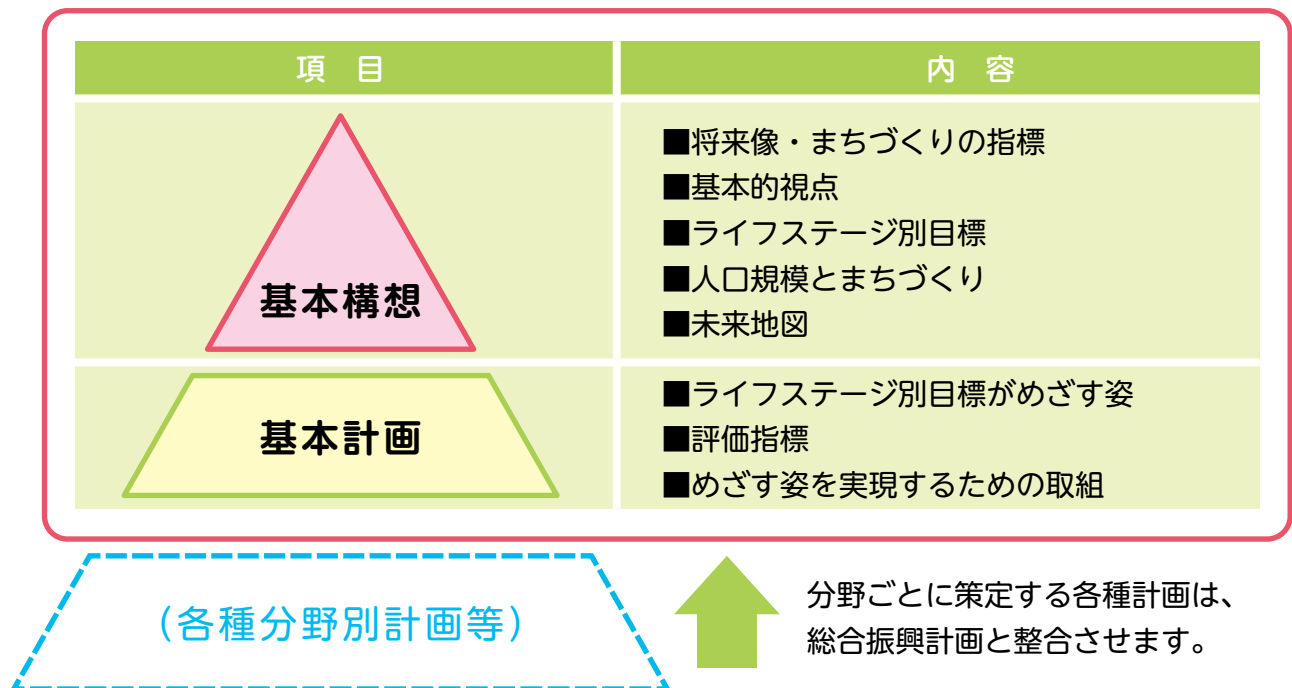
第1章 基本構想実現のための前期基本計画

1. なぜ基本計画を策定するのでしょうか

基本構想では、町の可能性、これから予想される社会の変化、町民の想いをもとに、みんなで共有する将来像、基本的視点、未来地図、目標などを明らかにしました。この基本構想は、町民、事業者、各種団体、行政など、様々な主体による、それぞれの努力や各分野の取組によって、初めて実現することができます。

基本計画は、基本構想の実現に向けて、前期5年、後期5年に分けて策定し、計画的な取組を展開していくため、大きく2つの役割を果たします。

- ①より多くの人まちづくりに対する理解を促進し、参加や協力・連携をしやすくする
- ②自治体行政や、各分野で策定される各種分野別計画が目指す目標を明らかにする



2. 前期基本計画体系一覧

将来像	基本的視点	ライフステージ別目標	めざす姿	取組が必要なこと
未来へつなぐ みんなで 安心して暮らせるまち よしみ ―20年先への種まき―	変化の「先」を見る あるものを活かす・つなげる 試してみる	 よしみ01 吉見で育ちたい 育てたい	<ul style="list-style-type: none"> ●まちの将来を担う大切な「よしみっ子」たちが楽しみながら育っている 	結婚・妊娠・出産 母子保健・医療制度 子育ての支援 不安や悩みの軽減
		 よしみ02 吉見で学びたい	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが夢の実現に向けて充実した学校生活を送っている ●いつでも、どこでも、誰でも、様々な学びができ、活躍している 	学校教育 地域を学ぶ・地域で学ぶ 学びやスポーツの「場」 生涯学習活動
		 よしみ03 吉見で働きたい	<ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの生活や個性に合った多様な働き方をしている ●地域資源を活かした産業に活力が生まれている 	多様な就労と雇用 農業 商工業 観光
		 よしみ04 吉見で暮らしたい	<ul style="list-style-type: none"> ●安全安心な環境で、快適な生活を送っている ●自助・共助・公助によって助け合いながら暮らしている ●心身ともに健康で、自分らしい生活を続けている 	暮らしやすい環境 病気の予防と健康長寿 障がいのある人の自立と安心 助け合いと仲間づくり 防災や防犯
		 よしみ05 吉見を知りたい	<ul style="list-style-type: none"> ●町の魅力が多くの人に伝わり、関心を持つ人、応援してくれる人が増えている 	誰もが参加できるまちづくり 地域資源と町のPR ふるさと納税の活用 情報の活用とセキュリティ
		 よしみ06 吉見の未来を引き継ぎたい	<ul style="list-style-type: none"> ●まちの将来を「自分ごと」と捉えまちづくりに参加している ●自然や文化を大切に守り、みんな未来へのまちづくりをしている 	未来に向けて 歴史や文化の継承 人権と平和 行財政運営

3. 各種分野別計画と関連するライフステージ別目標

No.	分野別計画	関連する ライフステージ別目標
1	吉見町人権施策基本方針	
2	吉見町地域防災計画	
3	吉見町男女共同参画プラン	
4	吉見町町民行動基本計画	
5	吉見町公共施設等総合管理計画	
6	吉見町国民健康保険特定健康審査等実施計画	
7	吉見町国民健康保険保健事業実施計画	
8	吉見町障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画	
9	吉見町地域福祉計画・地域福祉活動計画	
10	よしみ健康いきいきプラン	
11	吉見町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画	
12	吉見町子ども・子育て支援事業計画	
13	吉見農業振興地域整備計画書	
14	吉見町環境基本計画	
15	吉見町空家等対策計画	
16	吉見町水道事業ビジョン	
17	吉見町生活排水処理基本計画	
18	吉見町都市計画マスタープラン	

〈目標の凡例〉

よしみ01 吉見で
育ちたい・育てたい

よしみ02 吉見で
学びたい

よしみ03 吉見で
働きたい

よしみ04 吉見で
暮らしたい

よしみ05 吉見を
知りたい

よしみ06 吉見の
未来を引き継ぎたい

特別
企画

未来へつなぐ みんなの想いを大募集

あなたの

「〇〇したい」

3



第2章 ライフステージ別の取組

よしみ01



よしみライフステージ 01 「育ちたい・育てたい」と思えるまち

めざす姿▶ まちの将来を担う大切な「よしみっ子」たちが
楽しみながら育っている

KPI	基準値	目標値 (令和7年度)
結婚相談支援による年間お見合い件数	10件	10件
不妊検査及び治療費助成年間利用件数	8件	10件
12歳児の永久歯のむし歯本数	0.62本/人	0.4本/人
保育所等の待機児童数	0人	0人
子育て支援センター年間利用者数	7,200人	6,800人

※ KPI: Key Performance Indicator (重要業績評価指標)

なぜこの目標が必要なのか？

ワークショップでは「子どもがいると、地域が明るくなる」という意見がありました。貴重でかけがえのない地域の子どもたち、孫たちは町の希望です。

結婚や出産を希望する人への支援、子どもたちが「吉見に生まれ育って良かった」と思えること、子どもや孫を育てる人が「吉見で育てて良かった」と思えることは、まちの未来、みんなの安心に深く関わっています。そして、「ここで育って良かった」、「この場所で育ちたい」と思えることが、「吉見で育てたい」につながっていきます。

こうした背景から、「育ちたい・育てたい」と思えるまちになることを目標に掲げました。



どんな取組が必要なの？

例えば…

<p>● 結婚・妊娠・出産</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 新婚世帯向け支援■ 不妊治療費の助成■ 妊婦・乳幼児健診	<p>● 子育ての支援</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 子育てに関する情報提供の強化■ ひとり親家庭などへの支援■ ニーズの変化に対応した保育体制の整備■ 幼児教育
<p>● 母子保健・医療制度</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 予防接種の普及・啓発■ こども医療費の助成■ 未熟児養育医療の給付■ 健康相談	<p>● 不安や悩みの軽減</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 親子教室、育児学級などの充実■ 子育て世代の交流機会づくり■ 児童虐待の防止

◎ **みんなができること**

- 妊娠中の人や乳幼児を連れた人を思いやる
- 子どもの手本になるような行動・振る舞いをする
- 子どもが事故や犯罪に巻き込まれないよう、子どもたちの登下校を見守る
- 子どもたちと一緒にいろいろな楽しむ
- 元気にあいさつをする



◎ **誰かが「吉見で育ちたい・育てたい」と思えるように、あなたができること**

— メモ —

よしみ02



よしみライフステージ02 「学びたい」と思えるまち

めざす姿▶

- ・子どもたちが夢の実現に向けて充実した学校生活を送っている
- ・いつでも、どこでも、誰でも、様々な学びができ、活躍している

KPI	基準値	目標値 (令和7年度)
学校評価に関するアンケート目標値達成項目割合	80%	90%
中学1年生の公費負担による英検の合格率	80%	85%
吉見町民体育館年間利用者数	40,449人	45,000人
図書館等複合施設年間来館者数	—	48,000人

※ KPI: Key Performance Indicator (重要業績評価指標)

なぜこの目標が必要なのか？

子どもたちがそれぞれの夢の実現に向けて、安心して学び、充実した学校生活を送ることができる環境の整備は、未来につながるまちづくりそのものです。少子化が進む中、児童生徒一人ひとりの個性を大切にするために、学校現場の指導力向上に加えて、保護者・地域と学校の連携など、多面的な取組が求められます。

また、仕事のために学ぶ、趣味やスポーツに打ち込む、誰かに教える・学び合うといった多様な学びの場、生涯学習の環境は、一人ひとりが生きがいを持って、充実した心豊かな生活を送るためにも不可欠です。

こうした背景から、子どもから高齢者まで「学びたい」と思えるまちになることを目標に掲げました。



どんな取組が必要なの？

例えば…

<ul style="list-style-type: none">● 学校教育 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 確かな学力を身に付ける■ 体力の向上■ 時代の変化に対応する教育■ 一人ひとりの個性に合わせた指導・教育	<ul style="list-style-type: none">● 学びやスポーツの「場」 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 施設の適正な維持管理■ 教育設備の計画的な整備・更新■ ICT 活用
<ul style="list-style-type: none">● 地域を学ぶ・地域で学ぶ <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 社会科見学や社会体験活動■ 地元企業・事業者との連携■ 食育■ 図書館等複合施設の活用	<ul style="list-style-type: none">● 生涯学習活動 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 生涯学習意欲の向上と学習機会の確保■ 誰もが参加できるスポーツ活動■ 健康づくり・生きがいづくり■ スキルアップ・学び直し

◎みんなができること

- 夢の実現に向けて頑張る子どもたちを応援する
- 子どもたちが多様な経験・実体験をできるように支援する
- 家族や友人と一緒に文化活動やスポーツ活動などを楽しむ
- 自分が学んだ知識や身に付けた技能を誰かに教える
- 使った施設や場所をきれいにする



◎誰かが「吉見で学びたい」と思えるように、あなたができること

— メモ —

よしみ03



よしみライフステージ03 「働きたい」と思えるまち

めざす姿▶

- ・一人ひとりの生活や個性に合った多様な働き方をしている
- ・地域資源を活かした産業に活力が生まれている

KPI	基準値	目標値 (令和7年度)
週2回以上収入のある仕事をしている65歳以上の町民	25.4%	30%
農地中間管理事業推進地区 ^{xiv} 数	4地区	10地区
町内小売業年間商品販売額	544億円	629億円
令和3年度以降の累計雇用創出数	—	3,000人

※ KPI: Key Performance Indicator (重要業績評価指標)

なぜこの目標が必要なのか？

町の基幹産業である農業や、職人の技能など、多くの人を守りたいと思っている「仕事」があり、各種産業（農業、商業、工業、観光など）の振興が求められています。

また、新産業や事業の創出、テレワークによる時間や場所にとらわれない働き方、ワークライフバランス、生きがいとしての仕事など、既存の形態にとらわれない多様な働く機会・場が求められるようになっていきます。

人口規模が縮小しても、町の活気や経済的活力を縮小させないためには、町内外で働く町民、町内で働く町外の人など、一人ひとりの活躍が大切です。

こうした背景から、「働きたい」と思えるまちになることを目標に掲げました。

^{xiv} 農地中間管理事業推進地区／農地を貸したいという農家（出し手）と、農地の有効利用や農業経営の効率化を進める担い手（受け手）の農地の貸し借り、担い手への農地の集積・集約化を推進している地区

どんな取組が必要なの？

例えば…

<ul style="list-style-type: none">● 多様な就労と雇用 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 企業誘致■ 多様な就労・産業の創出■ 雇用の促進	<ul style="list-style-type: none">● 商工業 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 既存立地企業・中小企業の支援■ 農業・観光との連携■ 商業の拠点づくり
<ul style="list-style-type: none">● 農業 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 多様な担い手の確保・育成■ 商業・観光との連携■ 農地の有効活用■ 町の農業・農産物の魅力発信	<ul style="list-style-type: none">● 観光 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 農業や歴史・文化との連携■ 観光資源の発掘と交流人口増加■ 広域連携による観光振興■ 道の駅の機能拡充

◎みんなができること

- 地域のお店で買い物をしたり、吉見町産の食材を食べたりする
- 町内の事業者や企業について、興味を持って調べてみる
- 仕事で分からないことや悩みなどがあったら、誰かに相談する



◎誰かが「吉見で働きたい」と思えるように、あなたができること

— メモ —

よしみ04


 よしみライフステージ04
 「暮らしたい」と思えるまち

- めざす姿▶
- ・安全安心な環境で、快適な生活を送っている
 - ・自助・共助・公助によって助け合いながら暮らしている
 - ・心身ともに健康で、自分らしい生活を続けている

KPI	基準値	目標値 (令和7年度)
町内小売業の売場面積	7,854 m ²	16,854 m ²
デマンド型交通年間乗車人数	6,774 人	12,000 人
きちんと分別されたごみの割合	93%	95%
特定健診の受診率	42%	60%
65 歳健康寿命 ^{xv} ・男性	17.47 年	18.1 年
65 歳健康寿命・女性	20.39 年	20.9 年
障がい者生活サポート事業利用者率	17.6%	20%
地域や趣味などのグループ活動の企画・運営に参加してみたいと思う65歳以上の町民	30.6%	31%
防災メール登録世帯数	2,700 世帯	4,000 世帯
交通死亡事故年間発生件数	0 件	0 件

※ KPI: Key Performance Indicator (重要業績評価指標)

なぜこの目標が必要な？

快適な日々の暮らしは、生活基盤となるインフラ（道路、上下水道など）、周囲の環境、健康、生きがい、もしものときへの備えなど、様々な要因が重なり合って実現します。

人口減少と少子化の進行が見込まれる中、若い世代が吉見町をふるさとと感じ、定住・移住したいと思えることは極めて重要です。また、誰でも、いくつになっても、いつまでも、住み慣れた地域で安心して暮らしていけることは、高齢化の進行や多様化する時代にとって、今後ますます重要になってきます。

子育て世帯、高齢者、一人暮らしの人、ずっと住んでいる人、新しく住む人など、様々な人たちが、吉見ならではの楽しさや幸せを感じながら暮らせるまちになっていくことが大切です。

こうした背景から、「暮らしたい」と思えるまちになることを目標に掲げました。

^{xv} 健康寿命／65歳以降、健康で自立した生活を送ることができる期間のこと。埼玉県では「65歳以降、介護保険の要介護2以上になるまでの期間」とされている。

どんな取組が必要なの？

例えば…

<p>●暮らしやすい環境</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■買い物環境の改善 ■公共交通・移動支援 ■道路、上下水道を含む各種公共施設の整備・維持管理 ■住環境の整備や景観の保全 ■ごみ処理・リサイクルの体制充実 	<p>●障がいのある人の自立と安心</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■障がい福祉サービス ■自立支援と社会参加 ■障がいのある児童・生徒の療育・教育 ■難病患者の生活安定
<p>●病気の予防と健康長寿</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■健康づくりと健康相談 ■各種検診・健診 ■介護予防と介護・福祉サービス ■地域包括ケア体制の整備 	<p>●助け合いと仲間づくり</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域での支え合いやボランティア活動 ■身近な集いの場づくり ■生活援助活動の支援 ■コミュニティづくり <p>●防災や防犯</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■防災体制の強化 ■防犯体制の整備 ■防災・防犯意識を高める ■交通安全対策の充実

◎みんなができること

- 避難袋や備蓄品を準備したり、避難場所や経路を確認したりする
- 普段から近所の人とあいさつを交わし、地域の活動に参加する
- 健康のために歩いたり、健診や検診を積極的に受けたりする
- リサイクルを心がけたり、ごみをきちんと分別して捨てたりする
- 家の周りの草刈りや水路の清掃など、身近な美化活動をする
- 水を大切に使い、下水に油や異物を流さないようにする
- 高齢者や障がいのある人の立場に立って考える

◎誰かが「吉見で暮らしたい」と思えるように、あなたができること

— メモ —

よしみ05


 よしみライフステージ05
 「知りたい」と思えるまち

めざす姿▶ ・町の魅力が多くの人に伝わり、関心を持つ人、応援してくれる人が増えている

KPI	基準値	目標値 (令和7年度)
町ホームページ年間アクセス数	10万件	12万件
プレスリリース年間打ち出し件数	12件	16件
ふるさと納税年間寄附金額	1億円	3億円
町の情報発信に満足している町民	49.8%	60%

※ KPI: Key Performance Indicator (重要業績評価指標)

なぜこの目標が必要なの？

町のことを知り、興味を持つことは、まちづくりの第一歩です。新たなビジネスの誘致、観光の活性化、移住・定住の促進なども、まず吉見町を知ってもらうことが必要です。

世界のどこにいても、吉見町のことを知りたいと思えばインターネットを使って調べることができるなど、様々なことがオンラインで可能になっています。一方、口コミや実体験など、非デジタルの情報を大切に感じる人もいます。

吉見町に興味や関心を持ち、吉見町のことを考え、吉見町を応援してくれる人を、町の内外に増やしていくことが大切です。

こうした背景から、「知りたい」と思えるまちになることを目標に掲げました。



どんな取組が必要なの？

例えば…

<p>●誰もが参加できるまちづくり</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■協働のまちづくり ■広報・広聴 ■区長とのさらなる連携 ■情報通信ツールの利活用 	<p>●ふるさと納税の活用</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■寄附者が魅力を感じる使い道 ■返礼品の充実 ■吉見町ならではの商品の開発 ■様々なふるさと納税の仕組み活用
<p>●地域資源と町のPR</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■町の知名度やイメージの向上 ■吉見町での「暮らし」の魅力発信 ■地域を知る活動の推進とPR ■マスメディアの積極活用 	<p>●情報の活用とセキュリティ</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報の受け手に合わせた多様な情報媒体の活用 ■正しい情報の発信・情報の整理 ■個人情報保護など情報セキュリティ対策

◎みんなができること

- 暮らしのなかで町の魅力を発見したら、誰かに話してみる
- おもしろいと感じたものや役に立つと思った町の情報を SNS などで発信する
- 興味を持ったこと、気になることは、誰かに聞いてみる
- 頑張っている人や団体を応援する



◎誰かが「吉見を知りたい」と思えるように、あなたができること

— メモ —



よしみライフステージ06 「未来を引き継ぎたい」と思えるまち

めざす姿▶

- ・まちの将来を「自分ごと」と捉えまちづくりに参加している
- ・自然や文化を大切に守り、みんなで未来へのまちづくりをしている

KPI	基準値	目標値 (令和7年度)
ボランティア体験プログラム年間参加者数	151人	200人
吉見百穴年間入場者数	59,997人	70,000人
審議会などの女性委員割合	24.6%	40%
マイナンバーカード累計交付枚数	2,922枚	12,000枚

※ KPI: Key Performance Indicator (重要業績評価指標)

なぜこの目標が必要なの？

豊かな自然、のどかな田園風景、人と人のつながり、歴史や伝統、特産品のいちごなど、多くの人が「これからも守りたい・残したい」と思っているものがあります。それらを守り、残していくために、時代に合わせて何かを変えたり、新しい取組が必要になったりすることもあります。ワークショップでは「伝統は、未来に向けてつくっていくもの」という意見がありました。

町民、事業者、各種団体、行政など様々な主体が連携することにより、吉見町に住むみんなで自分たちのまちについて考え、子どもや孫たちが、安心して「引き継ぎたい」と思えるまちづくりに取り組むとともに、いつの日か、地域で活躍する人材になれるよう、育て、見守り、後押ししていくことが大切です。

次の世代が「未来を引き継ぎたい」と思えるまちの実現は、子どもや孫たちのためだけではなく、いま頑張っている大人たちの安心にもつながります。

こうした背景から、「未来を引き継ぎたい」と思えるまちになることを目標に掲げました。

どんな取組が必要なの？

例えば…

<p>●未来に向けて</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■住民参画のまちづくり ■世代や業種を超えた人の交流 ■教育機関や研究機関との協力連携 ■公共施設・インフラの老朽化への対応 	<p>●人権と平和</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■基本的人権の尊重 ■男女共同参画社会の実現 ■平和意識の醸成 ■国際交流など異なる文化や地域への理解
<p>●歴史や文化の継承</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■文化財の保護・継承 ■吉見百穴や松山城跡などの環境整備 ■様々な芸術・文化活動の充実 	<p>●行財政運営</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■事務及びシステムなどの効率化 ■窓口サービスの向上 ■財政基盤の確立と維持 ■広域行政・広域連携

◎みんなができること

- 豊かな自然やのどかな田園風景を見て、感じて、楽しむ
- 住んでいる地域の歴史や文化に、興味を持つ
- 自分が知っている地域の歴史や文化、技術などを、次の世代に伝える
- 「本当に大切なもの」を考える
- 自分にできることを見つけて、やってみる







◎誰かが「吉見の未来を引き継ぎたい」と思えるように、あなたができること

— メモ —

7. KPIの一覧

※ KPI:Key Performance Indicator (重要業績評価指標)

ライフステージ別 目標	No.	指標	基準値	目標値 (令和7年度)	説明
吉見で 育ちたい 育てたい 	1	結婚相談支援による年間お見合い件数	10件	10件	結婚に対する支援の充実や、結婚を希望する方が町内に一定数いることを示す
	2	不妊検査及び治療費助成年間利用件数	8件	10件	妊娠に対する支援の充実や、妊娠を希望する方が町内に一定数いることを示す
	3	12歳児の永久歯のむし歯本数	0.62本/人	0.4本/人	歯・口腔の健康に対する意識が向上していることを示す
	4	保育所等の待機児童数	0人	0人	保育所の受け入れ態勢が整っていることを示す
	5	子育て支援センター年間利用者数	7,200人	6,800人	子どもや子育てをする人が利用できる施設等があることを示す
吉見で 学びたい 	6	学校評価に関するアンケート目標値達成項目割合	80%	90%	学校の教育環境や内容などについて、保護者から一定の評価を得ていることを示す
	7	中学1年生の公費負担による英検の合格率	80%	85%	中学生の英語力と英語学習に対する意欲を示す
	8	吉見町民体育館年間利用者数	40,449人	45,000人	スポーツの環境とスポーツに取り組む意欲があることを示す
	9	図書館等複合施設年間来館者数	—	48,000人	様々な学びや趣味のための身近な環境を町民が利用していることを示す
吉見で 働きたい 	10	週2回以上収入のある仕事をしている65歳以上の町民	25.4%	30%	高齢者の働く意欲や、高齢者が就労する場、機会などがあることを示す
	11	農地中間管理事業推進地区数	4地区	10地区	農地の集積化が進んでいることを示す
	12	町内小売業年間商品販売額	544億円	629億円	事業所の発展、消費意欲など町内小売業の活力を示す
	13	令和3年度以降の累計雇用創出数	—	3,000人	企業誘致、消費活動の活性化などにより、雇用の場や機会が生み出されていることを示す
吉見で 暮らしたい 	14	町内小売業の売場面積	7,854㎡	16,854㎡	身近な場所で買い物ができる環境が整っていることを示す
	15	デマンド型交通年間乗車人数	6,774人	12,000人	マイカー以外の移動手段が、多くの人に利用されていることを示す
	16	きちんと分別されたごみの割合	93%	95%	ごみの分別や環境への意識が高まっていることを示す

ライフステージ別 目標	No.	指標	基準値	目標値 (令和7年度)	説明
吉見で 暮らしたい よしみ04 	17	特定健診の受診率	42%	60%	定期的に検診を受けて、健康に対する意識が向上していることを示す
	18	65歳健康寿命・男性	17.47年	18.1年	65歳以降、健康上の支障に制限されことなく日常生活を送っていることを示す
	19	65歳健康寿命・女性	20.39年	20.9年	
	20	障がい者生活サポート事業利用者率	17.6%	20%	障がいのある人が安心して社会生活を送ることができるサービス・支援があることを示す
	21	地域や趣味などのグループ活動の企画・運営に参加してみたいと思う65歳以上の町民	30.6%	31%	高齢者が地域で活躍し、生き生きと暮らしている状態を示す
	22	防災メール登録世帯数	2,700世帯	4,000世帯	町民の防災意識や情報収集力が高まっていることを示す
	23	交通死亡事故年間発生件数	0件	0件	交通安全に対する意識の向上や施設の整備状況を示す
吉見を知りたい よしみ05 	24	町ホームページ年間アクセス数	10万件	12万件	情報が広く発信され、多くの人に届いていることを示す
	25	プレスリリース年間打ち出し件数	12件	16件	マスメディアに対して、積極的に町の情報が発信されていることを示す
	26	ふるさと納税年間寄附金額	1億円	3億円	町内に在住していない方が、吉見町を応援してくれていることを示す
	27	町の情報発信に満足している町民	49.8%	60%	町外に向けた町のPRに対する総合的な評価
吉見の未来を引き継ぎたい よしみ06 	28	ボランティア体験プログラム年間参加者数	151人	200人	ボランティア意識の向上と機会が充実していくことを示す
	29	吉見百穴年間入場者数	59,997人	70,000人	町の歴史や文化に関心を持っている人が、町内外にいることを示す
	30	審議会などの女性委員割合	24.6%	40%	政策等の決定過程に女性の視点が取り入れられていることを示す
	31	マイナンバーカード累計交付枚数	2,922枚	12,000枚	様々な手続きに関するオンライン化、デジタル化の基盤整備が進んでいることを示す



第4部
計画の実現に
向けて

第1章 計画の推進体制

1. 多様な主体の共感・協働

- ・この計画は、様々な変化に対応しながら、より良いまちづくりや快適な暮らしを実現するため、将来像や基本的視点（変化の「先」を見る、あるものを活かす・つなげる、試してみる）を町民、事業者、各種団体、行政などの多様な主体が共有し、共感をもって、協力しながら取り組むこととします。
- ・この計画に基づいて策定される各種分野別計画、実施計画等は、内容や取組状況について、各主体と適宜情報を共有し、町全体で計画を推進します。

2. 分野横断的な視点

- ・この計画は、一つひとつの施策を網羅する「事業管理型」の計画ではなく、多様な主体が協力しながら取り組む共通の目標を中心とした「目標管理型」の計画です。
- ・一人ひとりの生活視点から整理したライフステージ別の目標は、これまでの計画に見られた政策分野や既存の枠組みにとらわれることなく、分野を横断して連携し、必要な取組を進めていくことが大切です。

第2章 計画の進行管理

1. 変化への柔軟な対応—進化する計画—

- ・現代社会においては、社会状況や環境は、計画期間中もどんどん変化していきます。また、計画期間が長期にわたるほど、策定段階では分からなかった情報や新たな知識、便利な技術等も多くなります。
- ・この計画は、20年先を見据えた「目標管理型」の計画として、基本構想を実現するための具体的な手段などは各種分野別計画等に委ねることで、変化する状況に合わせた判断と、各取組の最適化を進めます。
- ・この計画は、策定時に位置付けた個別施策の進捗状況を管理する計画ではなく、各指標によって「全体として目標に近づいているか」を確認するとともに、社会状況や環境の変化を踏まえて手段を最適化する、策定後も進化する計画です。

2. 町民視点による進行管理

- ・この計画は、「10年間、何をどれだけやったか」ではなく、「10年後、人がどう感じるか」という基準でまちづくりを測ります。
- ・前期基本計画のKPIについては、「達成できた／できなかった」という達成度評価に留まらず、目標達成に向けた協力やコミュニケーションの促進、各主体がともに考えていくためのツールとしても活用します。
- ・計画の進捗状況と成果については、町広報やホームページなどを通して、できるだけ分かりやすく公表するとともに、広く町民等からの意見を把握し、その反映に努め、計画を着実に推進します。



第5部
參考資料

1. 吉見町総合振興計画審議会条例

昭和 45 年 12 月 25 日

条例第 24 号

(目的)

第 1 条 この条例は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づき、吉見町総合振興計画審議会の設置、組織及び運営に関する事項を定めることを目的とする。

(設置)

第 2 条 町長の諮問に応じ、町の総合振興計画に関し、必要な調査及び審議を行うため、吉見町総合振興計画審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 20 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- (1) 町の議会議員
- (2) 町の教育委員会委員
- (3) 町の農業委員会委員
- (4) 識見を有する者
- (5) 公募による町民

(会長及び副会長)

第 4 条 審議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第 5 条 委員の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会)

第 6 条 審議会は、必要に応じ、部会を置くことができる。

2 委員が属する部会は、会長が指名する。

第 7 条 部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選によって、これを定める。

2 部会長は、部会の事務を掌理する。

3 部会長に事故あるときは、あらかじめ部会長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第 8 条 審議会又は部会の会議は、それぞれ会長又は部会長が招集する。

2 審議会又は部会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会又は部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長又は部会長の決するところによる。

(庶務)

第 9 条 審議会の庶務は、総合振興計画の推進を総括する課において処理する。

(雑則)

第 10 条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和 46 年 7 月 6 日条例第 21 号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成 19 年 3 月 7 日条例第 6 号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成 21 年 3 月 9 日条例第 7 号）

この条例は、公布の日から施行する。

2. 吉見町総合振興計画審議会委員名簿

氏名	選出区分	備考
内野正美	町の議会議員	R2.10.1 退任
宮崎雄一	//	
岩崎勤	//	
秋山真美	//	
齊藤嘉宏	//	R2.10.8 就任
加藤千枝子	町の教育委員会委員	
伊田由夫	町の農業委員会委員	副会長
内野勇治	識見を有する者	会長
恩田貴裕	//	
近並重雄	//	
古杉弘幸	//	
秋庭諭	//	
鈴木稔	//	
田中早苗	//	
柴崎和男	//	
村田栄文	//	
作山すみ子	//	
沖田澄江	//	
小野川風音	//	
畠腹昭	公募による町民	
森田康司	//	

3. 第六次吉見町総合振興計画策定経過

令和元年

- 11月5日 令和元年度第1回プロジェクト会議
・策定スケジュールについて
・意識調査に係るアンケート（案）について
- 11月8日 令和元年度第1回吉見町総合振興計画審議会
・総合振興計画のあらまし
・第六次吉見町総合振興計画策定方針について
・策定スケジュールについて
・意識調査に係るアンケート（案）について
- 11月20日 町長ヒアリング
- 11月29日～ 職員アンケート（12月6日まで）
- 11月29日～ 住民意識調査「まちづくりアンケート」実施（12月14日まで）
・対象：18歳以上町民1,000人（無作為抽出）
・有効回答数：497通
- 12月 住民意識調査「中学生アンケート」実施
・対象：吉見中学校1～3年生（391名）
・有効回答数：372通

令和2年

- 1月28日～ まちづくりワークショップ実施（全5回、総参加者数64人）（2月5日まで）
・北公民館、東公民館、西公民館、南公民館、町民会館フレサよしみで実施
- 2月 「事業者アンケート」実施
・対象：町内に事業所・店舗をもつ吉見町商工会会員（発信数423件）
・有効回答数：59通
- 2月28日 議会（全員協議会）へ説明
・各種調査の結果について
- 3月 第五次吉見町総合振興計画の目標達成度評価を実施

- 6月24日 令和2年度第1回プロジェクト会議
・第五次総合振興計画の検証・総括について
・第六次総合振興計画の計画体系について
・人口フレームの考え方について
・今後の進め方について
- 7月3日 令和2年度第2回プロジェクト会議
・吉見町を取り巻く潮流・変化について
- 7月10日 令和2年度第1回吉見町総合振興計画審議会
・今後のスケジュールについて
・第五次吉見町総合振興計画の検証・総括及び次期計画の考え方・計画体系等について
- 7月30日 令和2年度第3回プロジェクト会議
・基本構想の構成等について
- 8月11日 令和2年度第4回プロジェクト会議
・基本構想の構成等について
- 8月20日 令和2年度第2回吉見町総合振興計画審議会
・基本構想の構成等について
- 9月2日 議会（全員協議会）へ説明
・第五次吉見町総合振興計画の検証・総括及び次期計画の考え方・計画体系等について
・人口推移予測について
- 9月24日 令和2年度第5回プロジェクト会議
・第六次吉見町総合振興計画（素案）について
- 9月29日 令和2年度第3回吉見町総合振興計画審議会
・第六次吉見町総合振興計画（素案）について
- 10月9日 令和2年度第6回プロジェクト会議
・第六次吉見町総合振興計画（案）について
- 10月15日 令和2年度第4回吉見町総合振興計画審議会
・諮問について
・第六次吉見町総合振興計画（案）について

- 10月19日 パブリックコメントの実施（11月13日まで）
 ・第六次吉見町総合振興計画・基本構想（素案）
- 11月10日 令和2年度第7回プロジェクト会議
 ・第六次吉見町総合振興計画（案）について
- 11月16日 令和2年度第5回吉見町総合振興計画審議会
 ・第六次吉見町総合振興計画（案）について
 ・答申書（案）について
- 11月16日 総合振興計画審議会長より町長へ答申
 ・第六次吉見町総合振興計画の基本構想(案)及び前期基本計画(案)
 について（答申）
- 11月30日 議会（全員協議会）へ説明
 ・第六次吉見町総合振興計画基本構想について
- 12月3日 第六次吉見町総合振興計画基本構想について（議会可決）
- 令和3年
- 2月13日 あなたの「〇〇したい」応募者の写真撮影
- 3月22日 第六次吉見町総合振興計画（町長決裁）

4. 審議会諮問・答申

吉発第 2891 号

令和2年10月15日

吉見町総合振興計画審議会
会長 内野 勇治 様

吉見町長 宮崎 善雄

第六次吉見町総合振興計画の基本構想（案）及び
前期基本計画（案）について（諮問）

標記の件につきまして、吉見町総合振興計画審議会条例（昭和45年12月25日
条例第24号）第2条の規定に基づき、下記のとおり貴審議会の意見を求めます。

記

- | | |
|--------------|--------|
| 1. 基本構想（案） | 別紙のとおり |
| 2. 前期基本計画（案） | 別紙のとおり |

令和2年11月16日

吉見町長 宮崎善雄様

吉見町総合振興計画審議会
会長 内野勇治

第六次吉見町総合振興計画の基本構想（案）及び
前期基本計画（案）について（答申）

令和2年10月15日付け吉発第2891号で諮問のあった第六次吉見町総合振興計画の基本構想（案）及び前期基本計画（案）について、当審議会は活発かつ慎重に審議を行った結果、原案を妥当と認め、下記の意見を付してここに答申いたします。

記

1. 本計画は、町民、事業者、各種団体、行政など様々な主体が、自らの意思によって関わり、ともに推進することで最大の効果を発揮できるものと考えられることから、計画の趣旨と内容を広く分かりやすく周知するとともに、計画の推進にあたっては情報も共有されたい。
2. 人口減少が進行するなかで町民等の想いを実現するため、町独自のスタイルとして位置付けた「ライフステージ別目標」の達成に向けて、従来の政策分野や既存の枠組みにとらわれることなく、分野横断的に取り組まれたい。
3. 自然災害や新型コロナウイルス感染症等の新たな課題、社会状況の変化等への対応については、迅速かつ柔軟に取組を進めるとともに、真に必要な場合は、中間見直しの時期を待つことなく、計画の改定を検討されたい。
4. 行政が決意を持って全庁の意思を統一し、将来像の実現に向けた役割と責任を明確にするとともに、分野別個別計画及び実施計画の策定にあたっては、長期的視点から町の未来につながるものとなるよう努められたい。
5. 計画の実効性には財源の確保が不可欠なことから、より一層の自主財源を確保するとともに、真に必要な不可欠なサービスに、限りある財源・人的資源等を効率的かつ効果的に活用する行財政運営に最善の努力をされたい。
6. 本計画は、人口減少の進行を見据えたものであるが、町の未来を担う若年層がぜひ暮らしたいと思うような魅力あるまちづくりに、引き続き積極的に取り組まれたい。
7. 本計画策定にあたり寄せられた、町民の声や審議会委員の意見を、施策を実施する際に十分尊重されたい。

5. 庁議名簿

No.	氏名	職名
1	宮崎善雄	町長
2	小川福美	副町長
3	大澤幸正	教育長
4	中島浩規	総務課長
5	小林啓三	政策財政課長
6	大久保栄樹	地域振興課長
7	西川実	地域振興課主幹
8	藤倉聡	会計管理者
9	田島秀之	税務会計課長
10	関口哲也	福祉町民課長
11	大澤修一	健康推進課長
12	富田安紀子	子育て支援課長
13	嶋崎堅良	農政環境課長兼農業委員会事務局長
14	関根正徳	農政環境課主幹
15	加藤佳男	まち整備課長
16	小島俊保	水生活課長
17	長田茂雄	議会事務局長
18	内野隆	教育総務課長
19	安野健司	生涯学習課長

6. 第六次吉見町総合振興計画・前期基本計画策定プロジェクトチーム名簿

令和元年度

No.	氏名	職名	所属	備考
1	内野 隆	課長	教育総務課	リーダー
2	関口 哲也	課長	福祉町民課	サブリーダー
3	大久保 栄樹	課長補佐	地域振興課	
4	富田 安紀子	課長補佐	子育て支援課	
5	中村 仁志	課長補佐	農政環境課	
6	伊田 道裕	係長	総務課	
7	島田 久司	係長	地域振興課	
8	古杉 宏美	係長	税務会計課	
9	山下 友幸	係長	福祉町民課	
10	梅田 洋美	主査	健康推進課	
11	曾我 貞子	係長	子育て支援課	
12	吉田 博一	係長	農政環境課	
13	磯田 和伸	係長	まち整備課	
14	児島 正俊	係長	まち整備課	
15	秋元 司	係長	水生活課	
16	中村 明子	係長	教育総務課	
17	太田 賢一	係長	生涯学習課	
18	加藤 忠彦	係長	生涯学習課	
事務局	小林 啓三	課長	政策財政課	
	横田 喜和	課長補佐	//	
	八木橋 健一	係長	//	
	内山 鉄也	係長	//	
	柴生田 卓	主事	//	

令和2年度

No.	氏名	職名	所属	備考
1	内野 隆	課長	教育総務課	リーダー
2	関口 哲也	課長	福祉町民課	サブリーダー
3	富田 安紀子	課長	子育て支援課	
4	西村 敦	課長補佐	農政環境課	
5	加藤 忠彦	課長補佐	地域振興課	
6	田中英之	係長	総務課	
7	島田 久司	係長	地域振興課	
8	古杉 宏美	係長	税務会計課	
9	雨宮 智恵	係長	福祉町民課	
10	伊田 道裕	係長	健康推進課	
11	曾我 貞子	係長	子育て支援課	
12	山下 友幸	係長	農政環境課	
13	磯田 和伸	係長	まち整備課	
14	児島 正俊	係長	まち整備課	
15	秋元 司	係長	水生活課	
16	中村 明子	係長	教育総務課	
17	太田 賢一	係長	生涯学習課	
18	内野 毅	係長	生涯学習課	
事務局	小林 啓三	課長	政策財政課	
	横田 喜和	課長補佐	//	
	八木橋 健一	係長	//	
	内山 鉄也	係長	//	
	大房 愛梨	主事補	//	

第1部 はじめに

第2部 基本構想

第3部 前期基本計画

第4部 計画の実現に向けて

第5部 参考資料

7. あなたの「〇〇したい」掲載者一覧

【未来へつなぐ みんなの想いを大募集 あなたの「〇〇したい」】

ライフステージ別目標「吉見らしさを感じながら『〇〇したい』と思えるまち」を多くの方と共有し、まちづくりと第六次吉見町総合振興計画により親しみを感じていただくため、あなたの「〇〇したい」を募集したところ、たくさんの応募をいただきました。敬称略、順不同で紹介します。

p.27	新井 ひなた	岸澤 京姫	有瀧 晴一	舟橋 風花	舟橋 陽花
	長島 愛唯	西山 浩通	小池 瑤	加藤 慶	小池 ヒロ
	矢島 朱莉 (吉見中学校生徒会)	前田 勝輝 (同左)	小松 源大 (同左)	上原 雪音 (同左)	加藤 穂岳 (同左)
	篠原 妃来 (同上)	小野田 有亜 (同左)	市川 結月	野口 侑希	宮崎 智 (宮崎書店)
	内山 結衣花	内山 裕仁	内山 香奈		
p.35	森田 悠友 (吉見中学校卓球部)	鳥海 健琉 (同左)	本田 陸空 (同左)	松崎 涼成 (同左)	吉澤 直生 (同左)
	豊島 千輝 (同上)	松村 洋斗 (同左)	大原 楓月 (同左)	金子 有紀	山崎 忍 (吉見町にゃん田の会)
	齊藤 陸	沖田 紘子	宮崎 笑里奈	宮崎 真里奈	宮崎 優真
	宮崎 正真	伊藤 直也 (セカンドファミリー)	伊藤 千草 (同左)	大畑 十作	新井 幸子
	吉田 仁	蓮沼 勝博	長峰 朱里		
p.43	目時 大地	佐藤 トキ江	時田 紫保	時田 脩成	瀬戸口 智圭 (武蔵丘サッカー部)
	落合 夏海 (武蔵丘サッカー部)	芳賀 朱鳳 (同左)	井上 舞 (同左)	須藤 莉奈 (同左)	川端 蒼弓 (同左)
	三田 雅姫 (同上)	大畑 陽子 (フォトグラファー)	小池 紗世	内山 鉄也	笹野 晃宏
	横田 侑汰	横田 直汰	横田 旺汰	宅間 琴音	

第六次吉見町総合振興計画

発行／令和3年（2021年）3月

発行者／吉見町

問合せ先／政策財政課

〒355-0192 埼玉県比企郡吉見町大字下細谷 411

T E L (0493) 54-1511 (代表)

F A X (0493) 54-4200

U R L <http://www.town.yoshimi.saitama.jp/>



吉見町